

HONDA

OWNER'S MANUAL

CB1300 SUPER FOUR

CB1300 SUPER FOUR SP

CB1300 SUPER BOL D'OR

CB1300 SUPER BOL D'OR SP



Honda 車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記を確認してください。

- お車の正しい取り扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

安全運転の基本として以下は重要ですので、お守りください。

- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

アドバイス

お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙や内容と実車が一致しない場合があります。車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

この取扱説明書は、**CB1300 SUPER BOL D'OR**を中心に説明しています。イラストは**CB1300 SUPER BOL D'OR**をベースにしています。

目次

安全なライディング P. 2

操作ガイド P. 12

メンテナンス P. 49

こんなときは P. 90

インフォメーション P. 100

スペック P. 112

索引 P. 115

安全なライディング

この章では安全な運転のために必要な情報を記載しています。
安全のためによくお読みください。

安全上守っていただきたいこと	P. 3
安全運転のために	P. 3
運転するときの注意	P. 5
アクセサリーと改造について	P. 10
積載について	P. 11

安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法で定められた日常点検・定期点検を行ってください
- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください
- 排気ガスには一酸化炭素（CO）などの有害な成分が含まれているため、エンジンは、風通しの良い場所でかけてください

安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください
- 同乗者が両手でからだを固定し、両足を後席用ステップにのせているか確認してください
- 急激なハンドル操作や片手運転などはさけ、安全な運転を心がけてください
- 同乗者、他の車両、歩行者などに対する配慮を欠かさないでください

乗車時の服装

運転者と同乗者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

Ⅰ ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車で PSC、SG マークか JIS マークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください
- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、眼を保護してください



警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

Ⅰ グローブ

摩擦に強い皮製のもの

Ⅰ ブーツまたはライディングシューズ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

Ⅰ ジャケット・パンツ

プロテクターを備え、体の露出の少ない長袖・長ズボン

運転するときの注意

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

■ 慣らしのポイント（走行距離 500 km まで）

- 急発進、急加速をさける
- 急ブレーキ、急なシフトダウンをさける
- 控えめな運転をする

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 制動力を効果的に得るために前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う
- 不必要な急ブレーキ、急なシフトダウンをしない
 - ▶ タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうおそれがあります。
 - ▶ コーナリングの際は、コーナーの手前で減速してください。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
 - ▶ タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。
- 連続したブレーキ操作をしない
 - ▶ 長い坂や急な坂で繰り返しブレーキをかけると、ブレーキの温度が上昇して効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABS は、直進制動時のブレーキのかけすぎによる車輪ロックを制御する装置です。

ABS を正常に機能させるため、必ず前後とも指定のタイヤ、スプロケットをお使いください。

- 制動距離を短くするためのものではない
 - ▶ ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
- 低速（約 10 km/h 以下）では普通のブレーキと同じ作動になる
- ブレーキ操作時に、レバーやペダルに反動が生じることがある
 - ▶ ABS が作動しているときの現象で異状ではありません。反動の強さは状況によって異なります。

■ エンジンブレーキ

スロットルを戻すと、エンジンブレーキが効きます。さらにエンジンブレーキを必要とするときは 5 速、4 速・・・とシフトダウンを行ってください。急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因や、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。また、長い下り坂や急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

■ 雨天または水たまりを走行したとき

路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

駐車するとき

- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜く

Ⅰ サイドスタンドまたはメインスタンドでの駐車

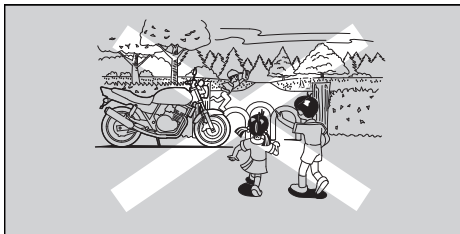
1. メインスイッチを○（Off）にする。
2. **サイドスタンドでの駐車**
サイドスタンドを下げ、車の重量がサイドスタンドにかかるまで、車をゆっくり左に傾ける。
▶ ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。

メインスタンドでの駐車

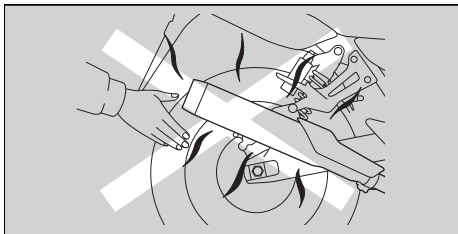
左手でハンドルをまっすぐにし、右手でグラブルールをしっかり持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立たせる。

3. ハンドルバーを左いっぱいにする。
4. ハンドルロックをかけ、キーを抜く。▶ P. 38

- マフラーなどが熱くなっているので、他の方が触れることのない場所に駐車する



- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラー、エンジンなどに触れない



⚠ 注意

マフラー、エンジン、ブレーキなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触れるとヤケドを負う可能性があります。

- ・ マフラー、エンジン、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- ・ 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

燃料補給およびガソリンの取り扱い

エンジン、燃料装置、触媒装置の損傷を防ぐため、下記に注意してください。

- 無鉛レギュラーガソリンを使用する
- 高濃度アルコール含有燃料を補給しない
- 軽油や粗悪ガソリン（長期間保管したガソリン）、または不適切な燃料添加剤を使わない
- 燃料タンクの中に、泥、ほこり、水などを入れない

警告

ガソリンは燃えやすくヤケドを負ったり爆発して重大な傷害に至る可能性があります。また身体に帯電した静電気の火花により引火する可能性があります。

ガソリンを取り扱うときは以下のことを守ってください。

- ・ エンジンを止め、火元を遠ざける
- ・ 給油は必ず屋外で行う
- ・ こぼれたガソリンは、すぐに拭き取る
- ・ 給油作業前に車体や給油機などの金属部分に触れて静電気を除去する

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面から Honda 純正アクセサリーを推奨します。Honda 販売店にご相談ください。

Honda 販売店で取り付けられた Honda アクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることはもちろん、他の迷惑行為となります。

車の改造は保証の適用を除外されます。

警告

不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

アクセサリーを装着する際は、Honda 販売店にご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

積載について

- 荷物を積むと積まないときに比べて操縦安定性が変わるため、安全な速度で走行してください
- 荷物の積みすぎに注意し、確実に固定して安全な速度で走行してください
- ハンドル操作ができなくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください
- ヘッドライト、ウィンカー、ストップノテールランプ、マフラー周辺への積載はさけてください
 - ▶ 過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。
- カバー等が破損する場合があるので、指定の場所以外に荷物を積まないでください
 - ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
- レンガや鉄片等、固くて重いものをシート下スペースに積んだまま走行しないでください
 - ▶ 積載重量以内でもシート下スペース底面が損傷する場合があります。
- 貴重品やこわれやすいものは積まないでください

- シート下スペースに熱の影響を受けやすい物は積まないでください

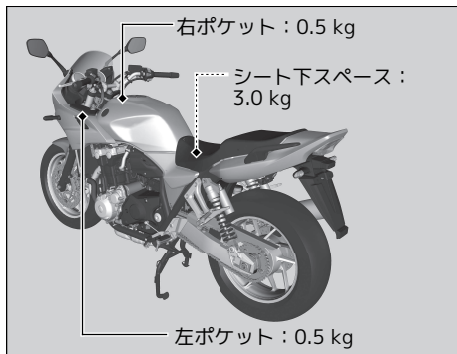
- 荷物の積載は下記重量までです
シート下スペース：3.0 kg

CB1300 SUPER BOL D'OR /
CB1300 SUPER BOL D'OR SP

右ポケット：0.5 kg

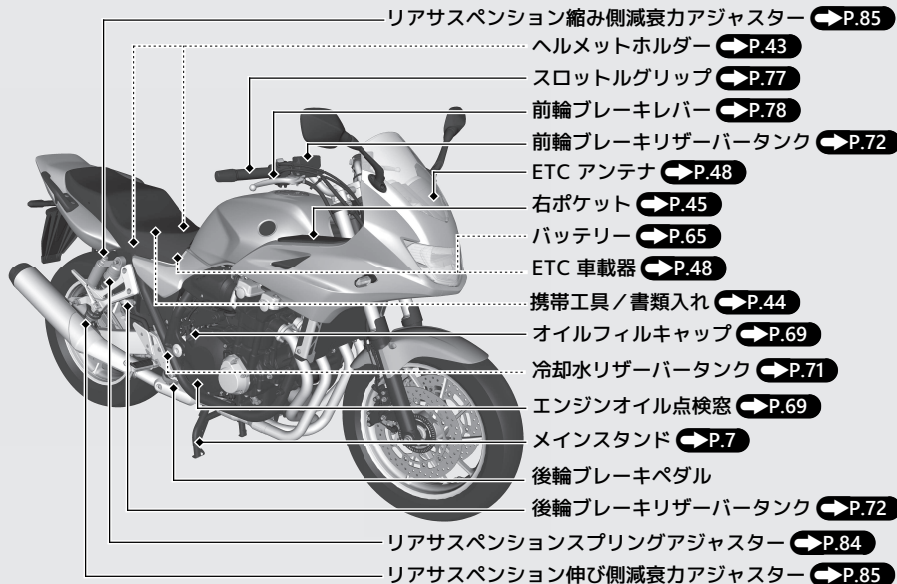
CB1300 SUPER BOL D'OR /
CB1300 SUPER BOL D'OR SP

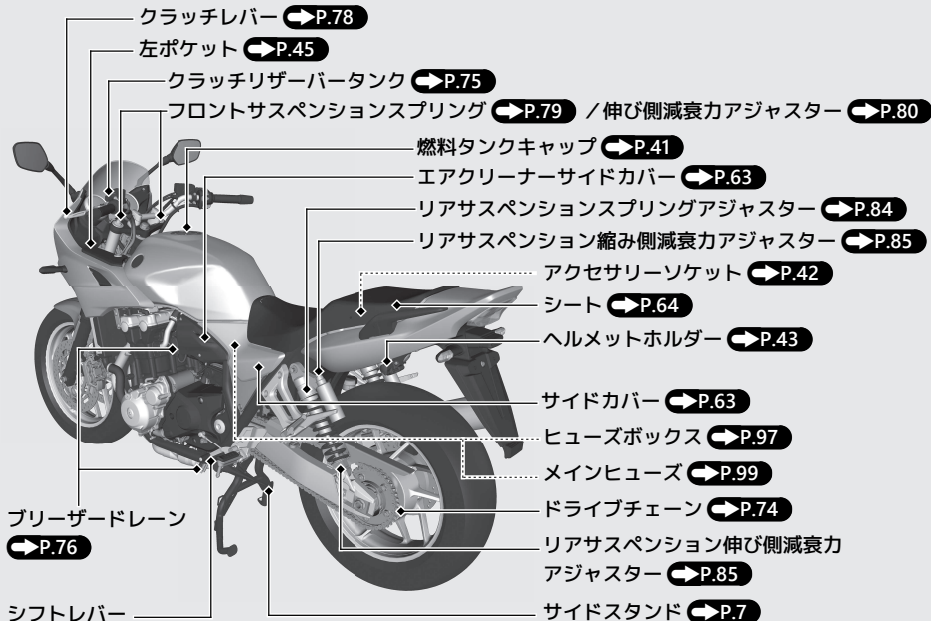
左ポケット：0.5 kg



各部の名称

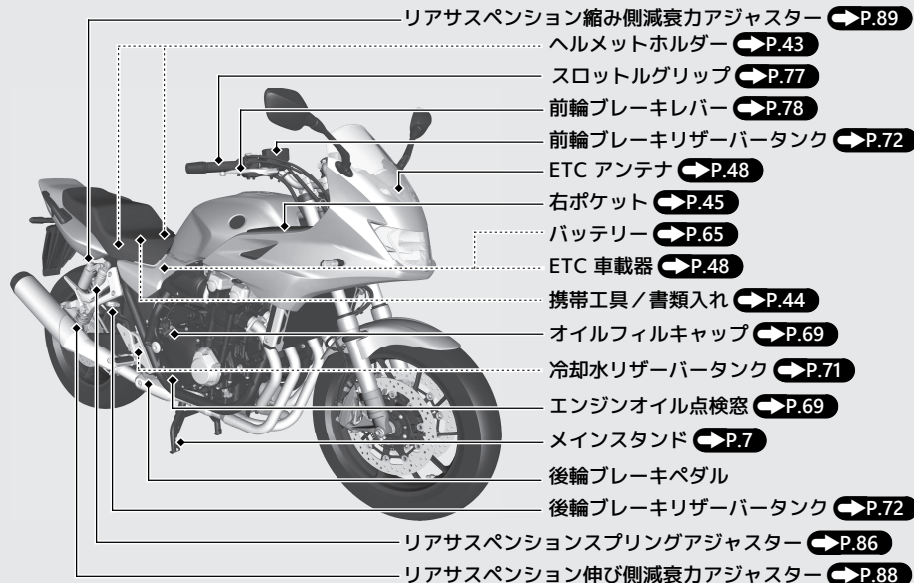
CB1300 SUPER BOL D'OR

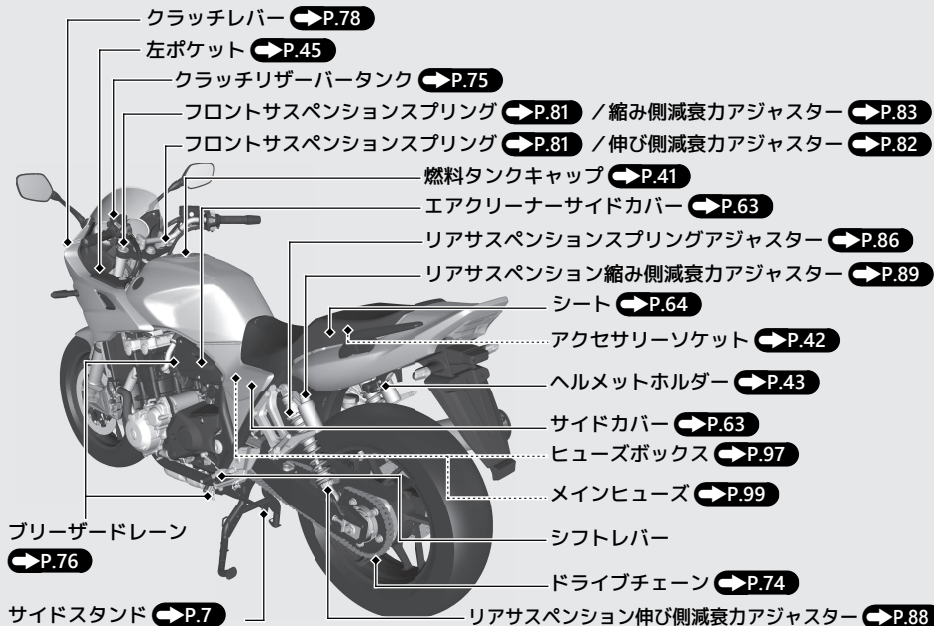




各部の名称 前ページの続き

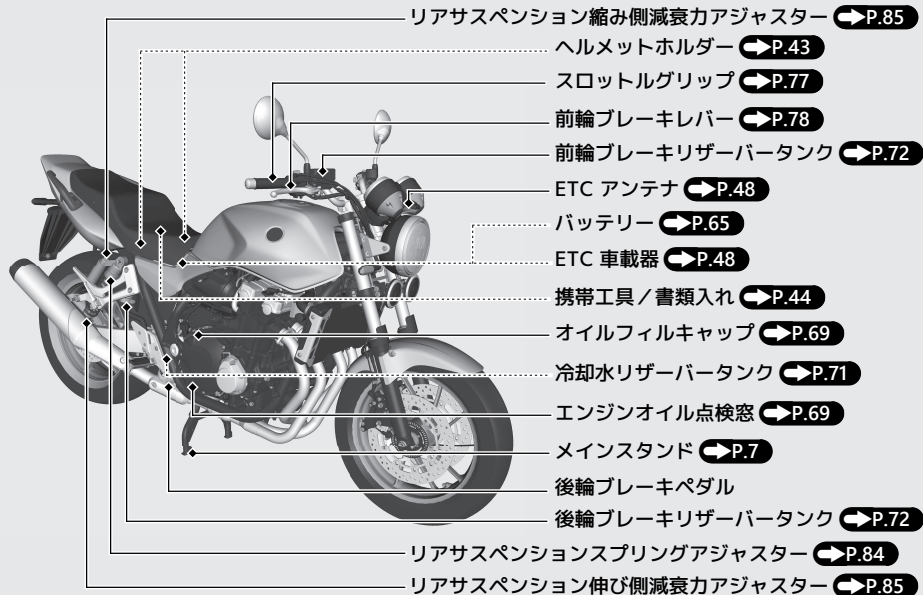
CB1300 SUPER BOL D'OR SP

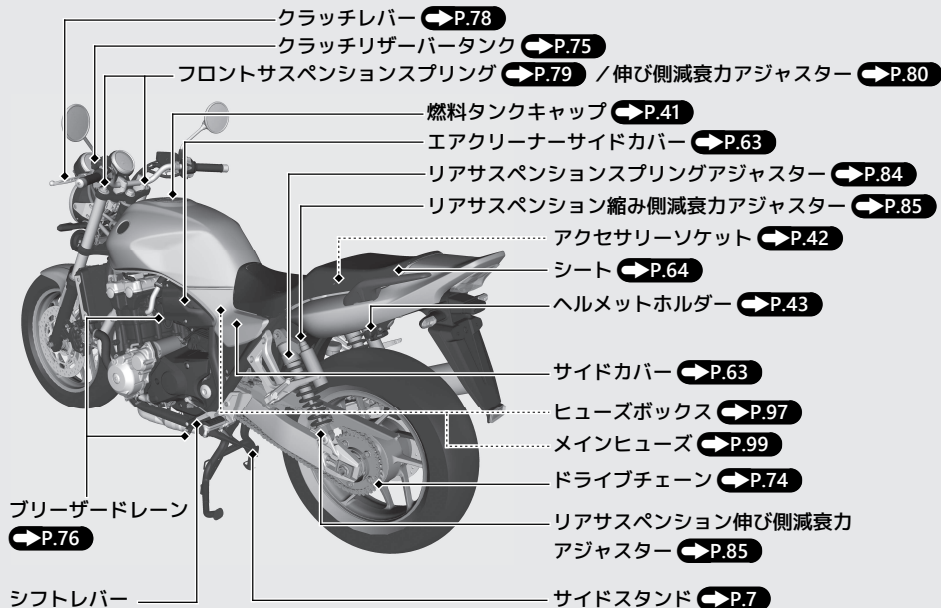




各部の名称 前ページの続き

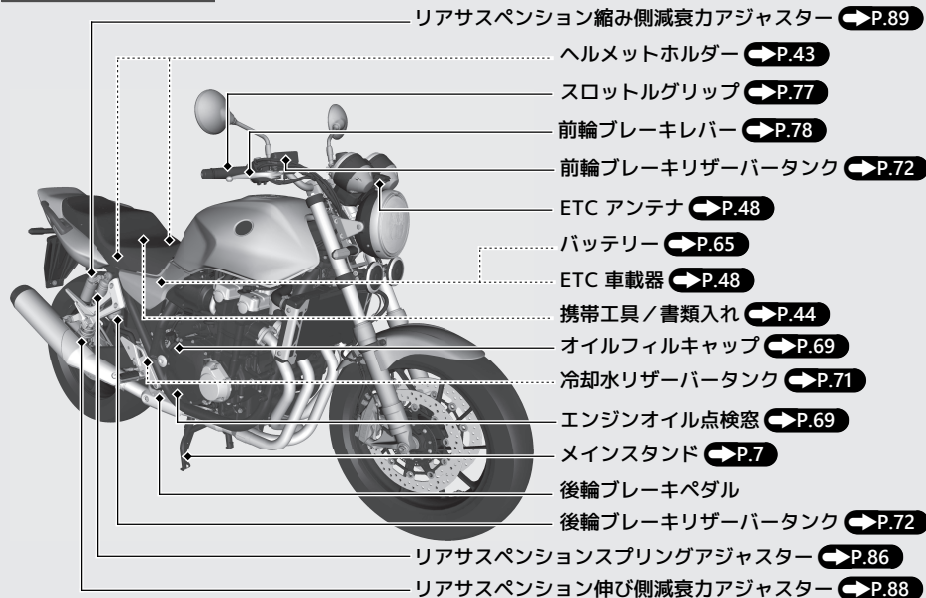
CB1300 SUPER FOUR

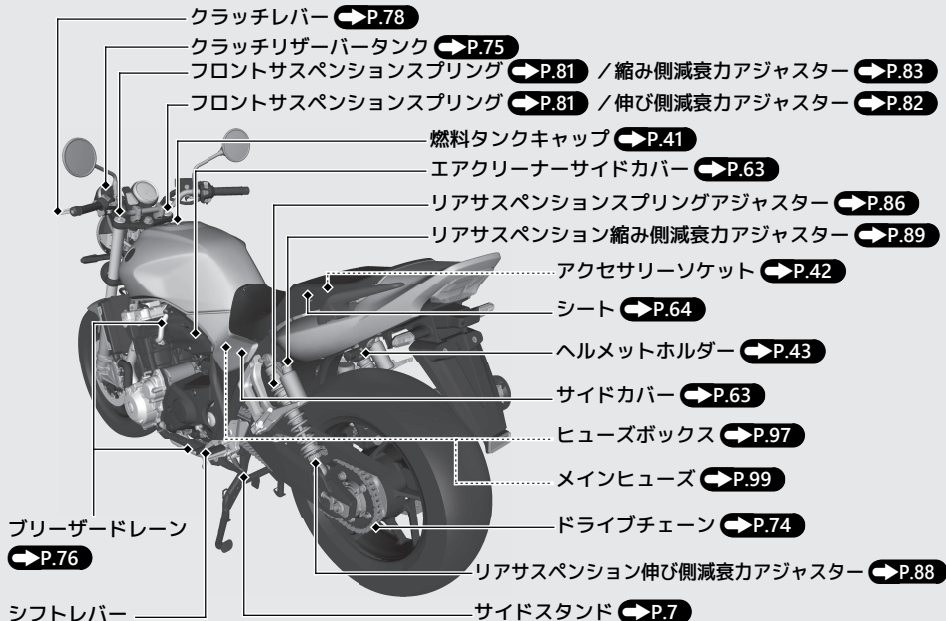




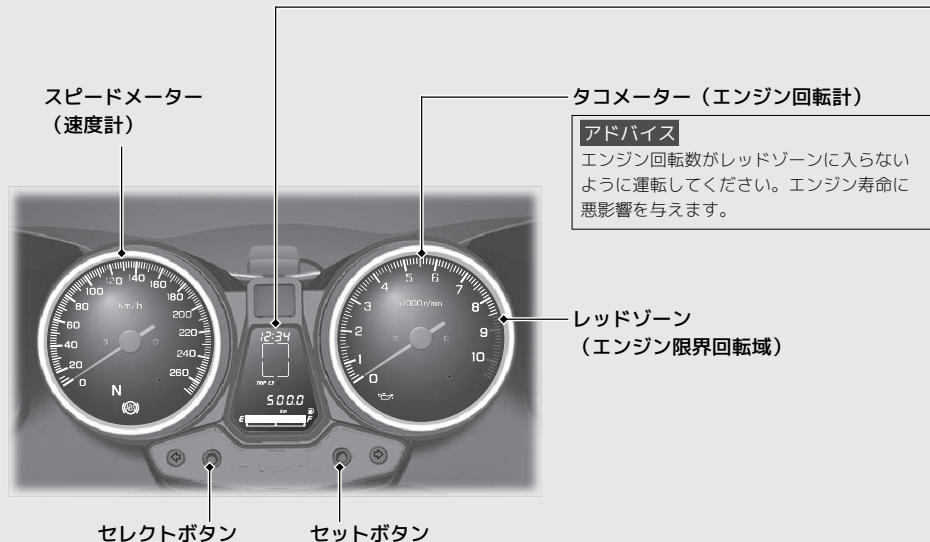
各部の名称 前ページの続き

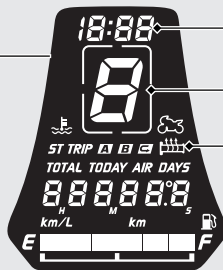
CB1300 SUPER FOUR SP





メーター





時計 (12 時間表示)

時計の合わせかた ➡ P.30

ギアポジション表示

ギアポジションを表示

- ▶ 時計設定時は“A” または“P” を表示します。
- ▶ トランスミッションが適切なシフトになっていない場合 “-” 表示が点滅します。
- ▶ トランスミッションが、適切なシフトになっていても “-” が点滅するときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

ハンドルグリップヒーターステータスアイコン

➡ P.46

燃料計

マークが 1 つ (E) だけ点滅したときの
燃料残量：約 4.0 ℓ



燃料計の故障表示 ➡ P.95

メーターの初期表示

メインスイッチを I (On) にすると、全ての表示があらわれます。表示されない部分がある場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

メーター 前ページの続き



ディスプレイの表示は2つのモードがあります。

表示モードの切り換えは、セレクトボタンを押しながらセットボタンを押す。

表示モード1

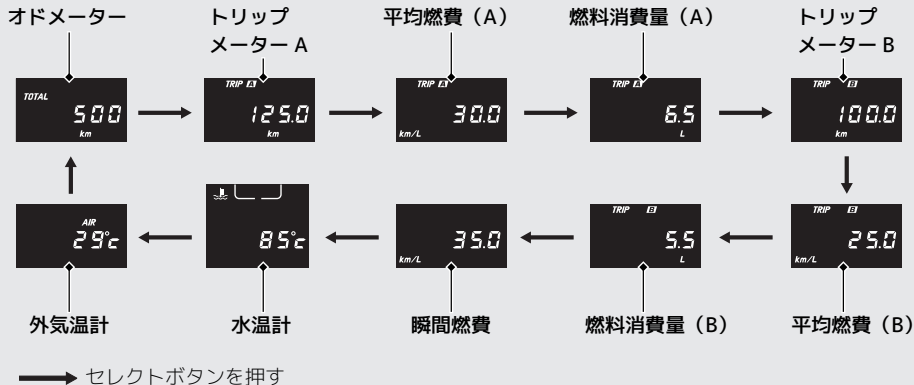
オドメーター、トリップメーターA、平均燃費(A)、燃料消費量(A)、トリップメーターB、平均燃費(B)、燃料消費量(B)、瞬間燃費、水温計、外気温計が表示されます。

トリップメーターをリセットするには ➡P.26

表示モード2

現在の日付、指定日のお知らせ、ストップウォッチ、減算トリップメーター、本日の走行距離が表示されます。 ➡P.27

表示モード 1



オドメーター[TOTAL] およびトリップメーター[TRIP A / B]

オドメーター：総走行距離を表示

トリップメーター：トリップメーターを 0.0 km にリセットしてからの走行距離を表示

トリップメーターをリセットするには ➡ P.26

メーター 前ページの続き

平均燃費

トリップメーター A または B をリセットしてからの平均燃費を、km/L の単位で表示

平均燃費 (A) はトリップメーター A の走行距離をもとに表示

平均燃費 (B) はトリップメーター B の走行距離をもとに表示

表示範囲：0.1 ～ 99.9 km/L

- 平均燃費が 0.1 km/L 未満、または 99.9 km/L を超えた場合は“--.”を表示します。
- トリップメーター A またはトリップメーター B をリセットした場合は“--.”を表示します。
- エンジンストップスイッチが~~ⓧ~~ (Stop) の場合は“--.”を表示します。

上記の場合をのぞいて表示が“--.”になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

燃料消費量

トリップメーター A または B をリセットしてからの燃料消費量を、L の単位で表示

燃料消費量 (A) はトリップメーター A の走行距離をもとに表示

燃料消費量 (B) はトリップメーター B の走行距離をもとに表示

表示範囲：0.0 ～ 300.0 L

- 燃料消費量が 300.0 を超えた場合は“300.0”を表示します。
- エンジンストップスイッチが~~ⓧ~~ (Stop) の場合は“---.”を表示します。

上記の場合をのぞいて表示が“---.”になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

平均燃費と燃料消費量をリセットするには

➡ P.26

瞬間燃費

瞬間燃費を km/L の単位で表示

表示範囲：0.1 ～ 99.9 km/L

- ・ 瞬間燃費が 0.1 km/L 未満、または 99.9km/L を超えた場合は"--" を表示します。
- ・ 速度が 7 km/h 未満の場合は"--" を表示します。

上記の場合をのぞいて表示が"--"になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

水温計

表示範囲：35 °C ～ 132 °C

- ・ 34 °C 以下の場合は"--" を表示します。
- ・ 122 °C 以上の場合は水温表示が点滅し、水温警告灯が点灯します。

水温が 100 °C 以上になる場合がありますが、沸騰温度をラジエーターキャップにより高めてあるためで異常ではありません。

外気温計

表示範囲：-10 °C ～ 50 °C

- ・ -11 °C 以下の場合は"--" を表示します。
- ・ 50 °C 以上の場合は"50 °C " が点滅します。

停止中や低速走行中は外気温が正しく表示されないことがあります。

メーター 前ページの続き

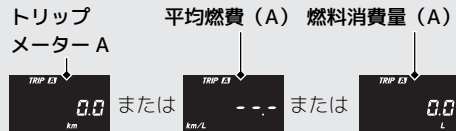
トリップメーター、平均燃費、燃料消費量のリセット

トリップメーター A をリセットすると、平均燃費 (A)、燃料消費量 (A) も同時にリセットされます。

- ① トリップメーター A および平均燃費 (A)、燃料消費量 (A) をリセットするには、トリップメーター A を表示中に、セレクトボタンを押し続ける。



- ② リセットされると下図のようにそれぞれ表示される。

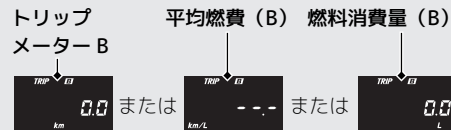


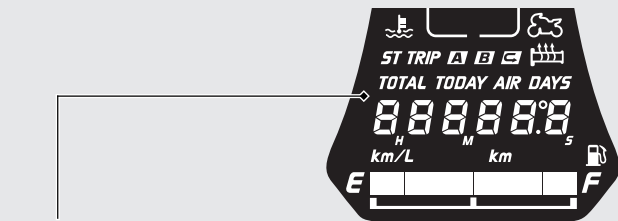
トリップメーター B をリセットすると、平均燃費 (B)、燃料消費量 (B) も同時にリセットされます。

- ① トリップメーター B および平均燃費 (B)、燃料消費量 (B) をリセットするには、トリップメーター B を表示中に、セレクトボタンを押し続ける。

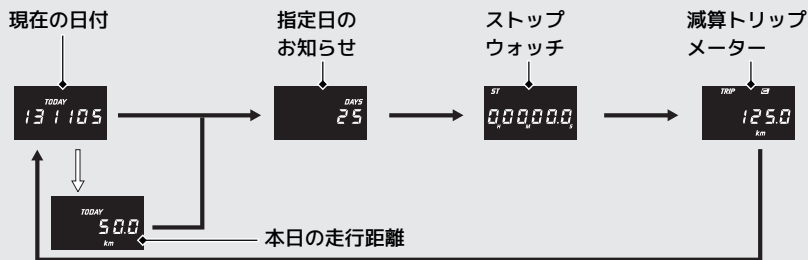


- ② リセットされると下図のようにそれぞれ表示される。





表示モード 2



- セレクトボタンを押す
 ⇨ 現在の日付を表示したあとに切り換わる

メーター 前ページの続き

現在の日付[**TODAY**]

現在の日付を“西暦（下2桁）、月（2桁）、日（2桁）”で表示

表示範囲：000101 ～ 991231（2000年1月1日～2099年12月31日）

- ・ バッテリーコードを取り外し、再び取り付けた場合は“000101”（2000年1月1日）を表示します。

日付の合わせかた ➡P.30

本日の走行距離[**TODAY**]



本日の走行距離は、現在の日付を約5秒間表示したあと、その日の走行距離を表示

表示範囲：0.0 km ～ 999.9 km

- ・ 999.9 を超えると 0.0 に戻りカウントを継続します。

指定日のお知らせ[**DAYS**]

車検日など任意に指定した日までの残り日数を表示

- ・ 指定日を設定していない場合は“-----”を表示します。
- ・ 指定日当日または指定日を過ぎた場合は“0”とを表示します。
- ・ バッテリーコードを取り外し、再び取り付けた場合は“0”が点滅しを表示します。


指定日を設定するには ➡P.30

ストップウォッチ[**ST**]

計測範囲：0 時間 00 分 00.0 秒から
9 時間 59 分 59.9 秒

- ・ 9 時間 59 分 59.9 秒を超えると 0 時間 00 分 00.0 秒に戻りカウントを継続します。

計測スタート：セットボタンを押す。

計測ストップ：計測途中にセットボタンを押す、またはメインスイッチを  (Off) にする。

計測リセット：計測停止状態でセレクトボタンを押し続ける。

減算トリップメーター

設定距離から走行した距離を減算して表示

表示範囲：999.9 km ～ 0.0 km

- ・ 設定距離を超えた場合は“0.0” が点滅します。
- ・ 減算トリップメーター以外を表示中に、設定距離を超えた場合は減算トリップメーターに切り換わります。

減算トリップメーターの距離を設定するには

➡ P.30

減算トリップメーターのリセット

減算トリップメーター表示中にセレクトボタンを押し続けると、設定した距離にリセットされる。

メーター 前ページの続き

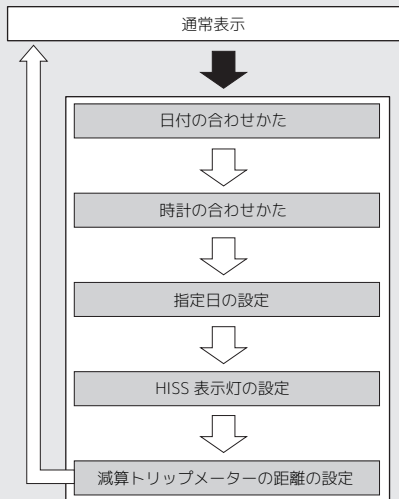
メーターの設定

以下の順で設定します。

- 日付の合わせかた
- 時計の合わせかた
- 指定日の設定
- HISS 表示灯の設定
- 減算トリップメーターの距離の設定

以下の方法でもメーターの設定から通常表示に戻ることができます。

- 約 30 秒間ボタンの操作がない場合
 - ▶ セットボタンを押して設定を決定した項目は、確定されます。
- メインスイッチを **○** (Off) にして、再度メインスイッチを **■** (On) にする。
 - ▶ 設定は確定されます。



➡ セレクトボタンとセットボタンを押し続ける

⇨ セットボタンを押す

1. 日付の合わせかた：

- ① メインスイッチを **I** (On) にする。
- ② 年の表示が点滅するまで、セレクトボタンとセットボタンを押し続ける。



- ③ セレクトボタンを押し、年（西暦の下2桁）を修正する。

▶ セレクトボタンを押し続けると数字が早く進みます。

- ④ セットボタンを押して年を決定する。決定と同時に月の表示が点滅する。



- ⑤ 月、日についても ③ ④ と同様の手順で設定する。

- ⑥ セットボタンを押し、日を決定する。決定と同時に時計の設定に切り換わる。

2. 時計の合わせかた：

- ① セレクトボタンを押し、時を修正する。

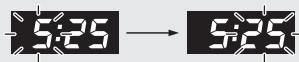


▶ セレクトボタンを押し続けると数字が早く進みます。

▶ AM/PM の表示は、ギアポジション表示に“A” (AM) または“P” (PM) が点滅し、数字が 11 から 12 へ進むと同時に切り換わります。



- ② セットボタンを押し、時を決定する。決定と同時に分が点滅する。



メーター 前ページの続き

- ③ セレクトボタンを押し、分を修正する。
- ▶ セレクトボタンを押し続けると数字が早く進みます。



- ④ セットボタンを押し、分を決定する。決定と同時に指定日の設定に切り換わる。

3. 指定日の設定：

- ① セレクトボタンを押し、年を選択する。
- ▶ セレクトボタンを押し続けると数字が早く進みます。
- “99”表示の次は“-”表示し、“-”表示の次は“00”を表示します。
- ▶ “-”の表示でセットボタンを押して決定すると、指定日なしの設定となります。決定と同時に HISS 表示灯の設定に切り換わります。



- ② セットボタンを押して年を決定する。決定と同時に月の表示が点滅する。



- ③ 月、日についても ① ② と同様の手順で設定する。
- ④ セットボタンを押し、日を決定する。決定と同時に HISS 表示灯が点灯し HISS 表示灯の設定に切り換わる。

4. HISS 表示灯の設定：

HISS 表示灯の点滅の ON、OFF を切り換えることができます。

- ① セレクトボタンを押し、“On”（点滅する）または“OFF”（点滅しない）を選択する。



- ② セットボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に減算トリップメーターの距離の設定に切り換わる。

5. 減算トリップメーターの距離の設定：

- ① セレクトボタンを押し、百の位を選択する。
▶ セレクトボタンを押し続けると数字が早く進みます。



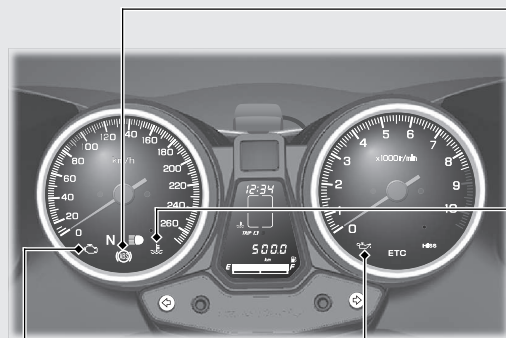
- ② セットボタンを押して百の位を決定する。決定と同時に十の位の表示が点滅する。







- ③ 十の位、一の位についても ① ② と同様の手順で設定する。
- ④ セットボタンを押し、一の位を決定する。決定と同時に通常表示に戻る。
▶ 設定前と同じ距離で設定した場合は、減算トリップメーターはリセットされません。

警告灯

警告灯／表示灯が点灯すべきときに点灯しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。



PGM-FI 警告灯

エンジンストップスイッチが  (Run) の状態で、メインスイッチを  (On) にすると点灯し、数秒後に消灯
エンジンストップスイッチが  (Stop) の状態で、メインスイッチを  (On) にすると点灯
走行中またはアイドリング中に点灯したときは ➡P.93




ABS 警告灯

メインスイッチを  (On) にすると点灯し、速度が約 10 km/h に達すると消灯
走行中に点灯／点滅したときは

➡P.94




水温警告灯

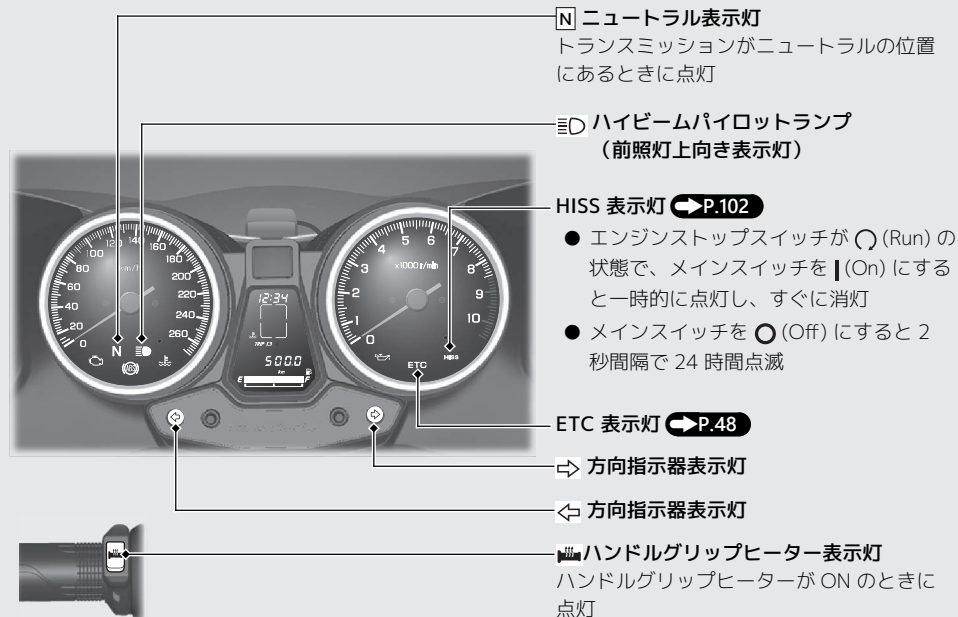
メインスイッチを  (On) にすると点灯し、数秒後に消灯
走行中またはアイドリング中に点灯したときは ➡P.92



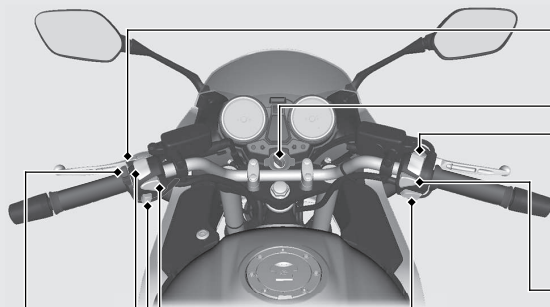
油圧警告灯

メインスイッチを  (On) にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯
走行中またはアイドリング中に点灯したときは ➡P.93


表示灯





スイッチ



≡D PASS パッシングライトスイッチ
(追い越し合図)
ヘッドライトが下向きの際のみ作動


エンジンストップスイッチ
通常は、○ (Run) 位置にしておく
▶ 非常時に  (Stop) 位置にすると、エンジンを停止できます


△ ハザード (非常駐車灯) スイッチ
・ メインスイッチが  (On) のときに使用できる

 **ホーンスイッチ**

⇐⇒ ウィンカー (方向指示器) スイッチ
▶ 解除はスイッチを押して行います。

ヘッドライト (前照灯) 上下切り換えスイッチ
・ **≡D (HI)** : ヘッドライトが上向き
・ **≡D (LO)** : ヘッドライトが下向き

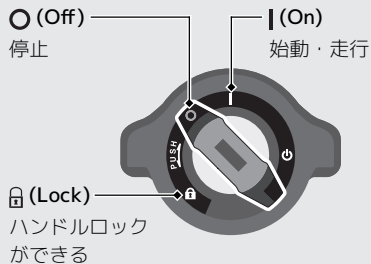
③ スタータースイッチ
エンジンストップスイッチが  (Stop) の時はスターターモーターは作動しない
▶ 作動時は、ヘッドライトが消灯します。

 **ハンドルグリップヒータースイッチ** ➡ P.46

メインスイッチ

電気回路の ON / OFF、ハンドルロック
に使用

- ▶ ○ (Off) または 𠂔 (Lock) の位置で、
キーを抜くことができます。



スイッチ 前ページの続き


ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。

U字ロックなどの使用も推奨します。



■ かけかた

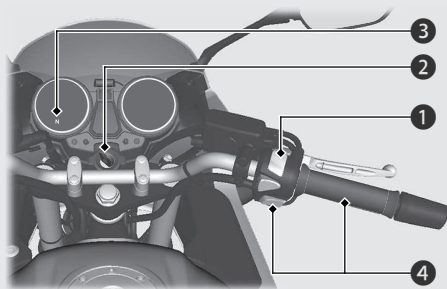
- ① ハンドルを左にいっぱいにする。
- ② キーを押し込みながら、 (Lock) の位置まで回す。
 - ▶ ロックがかかりにくい場合は、ハンドルを左右に軽く動かしてください。
- ③ キーを抜く。

■ 外しかた

キーを押し込みながら、 (Off) の位置まで回す。

エンジン始動

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかわらず、次の手順で行ってください。



アドバイス

- ・ スタータースイッチを押して5秒以内にエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを○(Off)にしてください。その後バッテリー電圧回復のため10秒ほど経ってからやり直してください。
- ・ 無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- ・ 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを○(Off)にしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

- ① エンジンスタープスイッチが (Run) の位置にあるか確認する。
- ② メインスイッチを | (On) に回す。
- ③ ギアをニュートラルにする。(表示灯点灯)
▶ ギアが入った状態では始動しません。ただし、サイドスタンドが格納されている状態でクラッチレバーを握れば始動します。
- ④ スロットルグリップを閉じたまま、スタータースイッチを押す。

エンジンがかからないときは

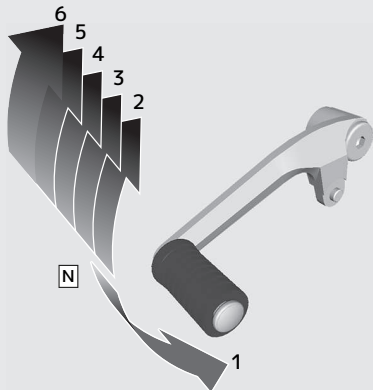
次の方法を試してください。

- ① スロットルグリップを全開にし、スタータースイッチを5秒間押す。
- ② 通常手順(①～④)でエンジンをかける。
- ③ エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合はスロットルグリップを少し開ける。
- ④ エンジンがかからないときは10秒間待ってから、①②の手順を繰り返す。

それでも始動できないときは ➡ P.91

ギアチェンジ

この車のトランスミッションは、下1速、上5速シフトの6速リターン式です。速度に応じてギアを切り換える必要があります。



走行前に、サイドスタンドが完全に納まっているか確認してください。

サイドスタンドを出したままギアチェンジを行うと、エンジンが停止します。

速度範囲

1 速 0 - 70 km/h

2 速 25 - 110 km/h

3 速 35 - 150 km/h

4 速 45 - 180 km/h

5 速 50 - 205 km/h

6 速 55 km/h 以上

シフトダウンについて

追い越しなど、強力な加速が必要なときはシフトダウンをします。高い速度でのシフトダウンは、尻振りなどの原因や、走行安定性を損なうほか、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。次の速度内で行ってください。

シフトダウン可能限界速度

6 速→5 速 195 km/h 以下

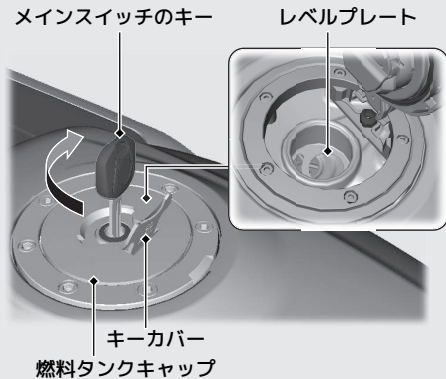
5 速→4 速 170 km/h 以下

4 速→3 速 140 km/h 以下

3 速→2 速 100 km/h 以下

2 速→1 速 50 km/h 以下

燃料補給



燃料がにじみ出ることがあるので、レベルプレート以上入れないでください。

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：21 ℓ

燃料についての注意 ➡ P.9

燃料タンクキャップの開けかた

キーカバーを開け、メインスイッチのキーを差し込み右に回して、燃料タンクキャップを開ける。

燃料タンクキャップの閉じかた

- ① 燃料タンクキャップを手で確実に押してロックする。
- ② メインスイッチのキーを抜き、キーカバーを閉じる。
 - ▶ 燃料タンクキャップがロックされないと、キーは抜けません。

⚠ 警告

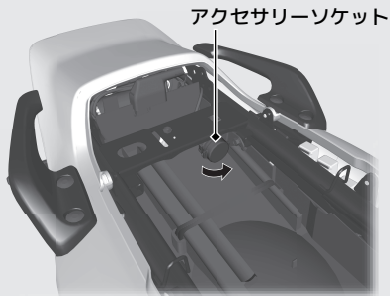
ガソリンは燃えやすいため、ヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

燃料補給およびガソリンの取り扱い ▣ P. 9

アクセサリースOCKET

アクセサリースOCKETはシート下にあります。
接続する機器についてはご自身の責任でお使いください。

カバーを開けてお使いください。
定格 36 W (12 V、3 A) まで使用できます。



- ▶ バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でお使いください。
- ▶ バッテリーあがりやソケットの損傷を防ぐため、機器を使用している間は、ヘッドライトは下向きにしてください。
- ▶ ソケットへの異物侵入を防ぐために、使用しないときはカバーを閉めてください。

アドバイス

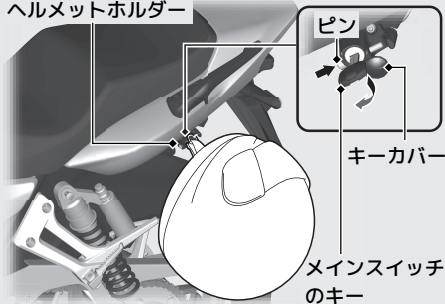
- 発熱する機器や定格以上の機器を使用しないでください。
- ソケットが濡れた状態では使用しないでください。

その他装備の使いかた

ヘルメットホルダー

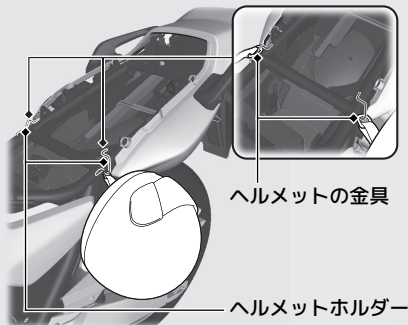
ヘルメットホルダーはシートの左下側と、シート下にあります。ヘルメットホルダーは駐車時のみお使いください。

ヘルメットホルダー



使い方

- 1 キーカバーを開け、キーを差し込み右に回してロックを解除する
- 2 ピンにヘルメットの金具をかけ、ピンを押してロックする。
- 3 キーを抜き、キーカバーを閉じる。



シートの取り外しかた ➡ P.64

警告

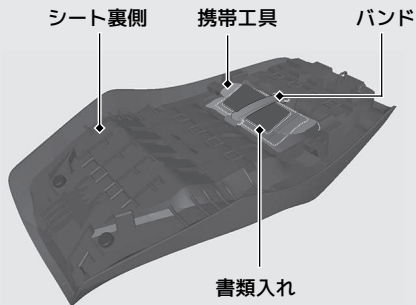
ヘルメットホルダーにヘルメットをつけたまま走行しないでください。

走行の妨げになり、重傷を負ったり死亡したりする事故が発生することがあります。

その他装備の使いかた 前ページの続き

携帯工具／書類入れ

携帯工具と書類入れは、シート裏側にあります。



- ▶ 携帯工具と書類入れは、図のようにシートの裏側に収納し、バンドでしっかりと固定してください。

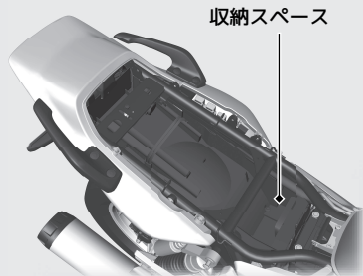
シートの取り外しかた ➡ P.64

収納スペース

収納スペースはシート下にあります。

収納スペース内への荷物の積載

- ▶ 積載重量上限：3.0 kg



- ▶ 貴重品やこわれ易いものは入れないでください。
- ▶ 熱の影響を受け易いものは入れないでください。

シートの取り外しかた ➡ P.64

左右ポケット

CB1300 SUPER BOL D'OR /
CB1300 SUPER BOL D'OR SP

左右ポケットの荷物の積載

- ▶ 積載重量上限：各 0.5 kg
- ▶ 走行中にポケットリッドの開閉は、行わないでください。

左ポケットのロックの外しかた

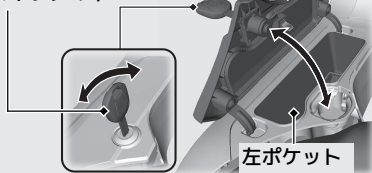
メインスイッチのキーを差し込み、右に回してロックを解除し、キーを抜く。

左ポケットのロックのかけかた

メインスイッチのキーを差し込み、左に回してロックし、キーを抜く。

ポケットリッド

メインスイッチのキー



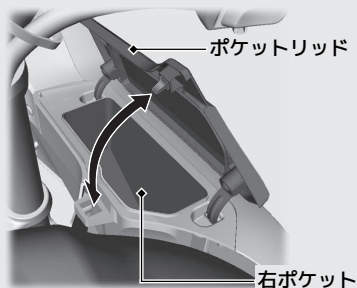
左右ポケットの開けかた

ポケットリッドを止まるところまで持ち上げる。

左右ポケットの閉じかた

ポケットリッドがロックするまで完全に閉じる。ポケットリッドが確実にロックされているか確認する。

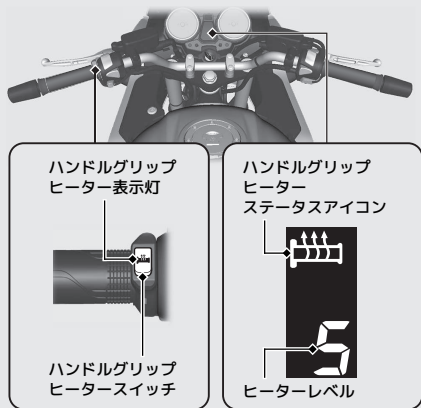
- ▶ 貴重品やこわれやすいものは入れないでください。
- ▶ 熱の影響を受けやすいものは入れないでください。



その他装備の使いかた 前ページの続き

ハンドルグリップヒーター

この車は、運転する際に手元を暖めるハンドルグリップヒーターを装備しています。ハンドルグリップヒーターを使用する際は、手袋を着用してください。



■ ハンドルグリップヒーター表示灯：

ハンドルグリップヒーター作動時に点灯する。ハンドルグリップヒーターを ON にしたとき、またはヒーターレベルを変更したときに、ヒーターレベルを表示灯の点滅回数で表示する。(例えばヒーターレベル5を選択した場合、表示灯は5回の点滅を7回繰り返します。)

■ ハンドルグリップヒーターステータスアイコン：

ハンドルグリップヒーター作動時に表示する。

■ ヒーターレベル：

ヒーターレベルを変更したときに数秒間表示する。

■ “E1”、“E2”、“E3” が点滅した時は ➡P.96

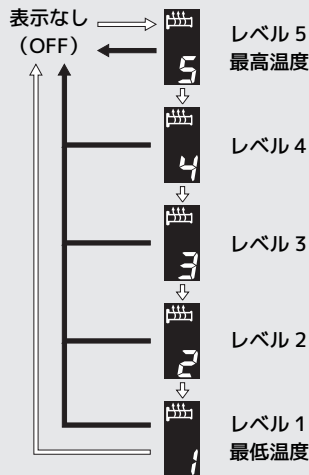


ハンドルグリップヒーターの使いかた

- ① エンジンを始動する。
- ② ハンドルグリップヒータースイッチを押し、ハンドルグリップヒーターを ON にする。
- ③ スイッチを押し、ヒーターレベルを選択する。
 - ▶ ハンドルグリップヒーターの温度は外気温によって変化するので、暖かい日の高温設定はさけてください。
 - ▶ 走行中はハンドルグリップヒータースイッチの操作を行わないでください。
- ④ OFF にするには、スイッチを押し表示なし (OFF) を選択する。
 - ▶ スイッチを押し続けることでも OFF にできます。

アイドリング状態での長時間のご使用はさけてください。バッテリーあがりの原因となります。メインスイッチを **○** (Off) にした場合、選択しているヒーターレベルは保持されます。

- ▶ ヒーターレベルの変更操作後、5 秒以内にメインスイッチを **○** (Off) にした場合、ヒーターレベルは変更しません。



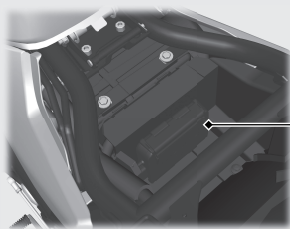
⇨ ハンドルグリップヒータースイッチを押し

➡ ハンドルグリップヒータースイッチを押し続ける

その他装備の使いかた 前ページの続き

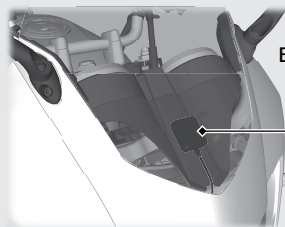
ETC 車載器/ETC 表示灯/ETC アンテナ

ETC 車載器の取り扱いについては、別冊の ETC 車載器取扱説明書をお読みください。



ETC 車載器

CB1300 SUPER BOL D'OR /
CB1300 SUPER BOL D'OR SP



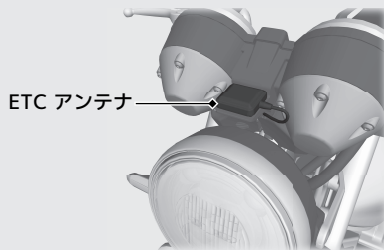
ETC アンテナ

CB1300 SUPER FOUR / CB1300 SUPER FOUR SP

シートを取り外しかた ➡ P.64



ETC 表示灯



ETC アンテナ

メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。
また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

メンテナンスの基礎知識	P. 50
主要部品の脱着方法	P. 62
クリップ	P. 62
サイドカバー／エアクリーナーサイドカ バー	P. 63
シート	P. 64
バッテリー	P. 65
ハンドルバーポジション	P. 68
エンジンオイル	P. 69
冷却水	P. 71
ブレーキ	P. 72
ドライブチェーン	P. 74
クラッチ	P. 75
ブリーザードレーン	P. 76

スロットル	P. 77
その他の調整	P. 78
レバーの距離調整	P. 78
フロントサスペンションの調整	P. 79
リアサスペンションの調整	P. 84

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年ごと（12か月ごと）、2年ごと（24か月ごと）の定期点検整備が義務付けられています。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- ・点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- ・異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- エンジンを停止し、キーを抜いた状態で行う
- 平坦地で足場のしっかりとした場所で行う
- エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない
- エンジンを始動して作業をする場合は、換気を十分に行う

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に従って、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

異音や異状を感じたときは、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

Ⅰ 日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

● ブレーキ

- ・ レバーの遊び（油圧式）
- ・ ペダルの遊び（油圧式）
- ・ ブレーキの効き具合
- ・ ブレーキ液の量

● タイヤ

- ・ 空気圧
- ・ 亀裂、損傷
- ・ 異状な摩耗
- ・ 溝の深さ

● エンジン

- ・ 冷却水の量
- ・ オイルの量
- ・ かかり具合、異音
- ・ 低速、加速の状態

● 灯火装置および方向指示器

● 運行において異状が認められた箇所

● ドライブチェーンの緩み（Honda 指定）

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから1か月目（または、1,000 km 時）に行う点検、Honda が指定する点検整備項目もあります。

Ⅱ 道路運送車両法で定められた点検

道路運送車両法で定められた点検には、以下の種類があります。

● 日常点検

● 1年ごと（12か月ごと）に行う点検

● 2年ごと（24か月ごと）に行う点検

小型二輪車〔250 cm³（cc）を超えるもの〕は、1回目を登録日から3年後に、2回目以降は2年ごとに、国で定める継続検査が必要です。

■ご自身で点検を実施する場合

安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda 販売店にご相談ください。

点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

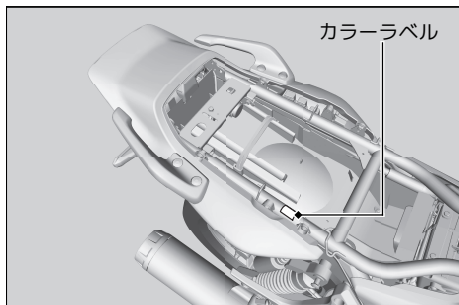
■1 か月目点検について

新車から 1 か月目（または、1,000 km 時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげの Honda 販売店で行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

■交換部品について

整備の際は、Honda 純正部品を使用してください。色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、シートを取り外すと確認できます。▶ P. 64



⚠ 警告

Honda 純正部品以外のアクセサリ・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。

Honda 純正部品を使用してください。

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しており、バッテリー液の点検、補給は必要ありません。バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

また、密閉式の液口キャップは絶対に取り外さないでください。バッテリー充電時も液口キャップを取り外す必要はありません。

アドバイス

バッテリーには寿命があります。交換時期については、Honda 販売店にご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

Ⅰ 万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が眼に付着したとき
 - ▶ コップなどに入れた水で、15 分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。

- 電解液が皮膚に付着したとき
 - ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
 - ▶ 水、または牛乳を飲んでください。

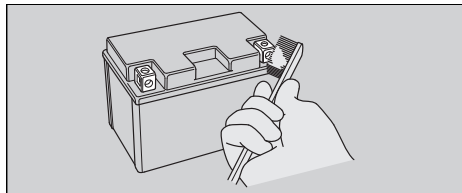
警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、眼や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- ・ バッテリーの近くで作業するときは、保護メガネと保護服を着用
- ・ バッテリーを子供の手の届く所に置かない
- ・ ショートによる火花やたばこなどの火気に十分注意する

■ターミナル部の清掃

1. バッテリーを取り外す。▶ P. 65
2. ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭く。
3. ターミナル部の腐食が著しいときは、ワイヤーブラシまたはサンドペーパーで磨く。



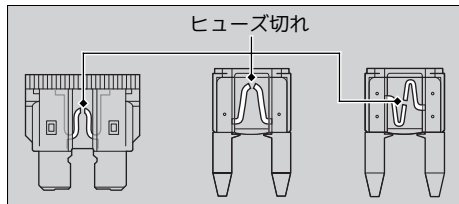
4. 清掃後、バッテリーを取り付ける。
電装部品やアクセサリを取り付けるときは純正アクセサリをご使用ください。それ以外のものを使用するとバッテリーあがりや故障の原因となります。

ヒューズ

この車の電気回路は、ヒューズで保護されています。電装部品が動作しないときは、ヒューズを調べ、必要に応じて交換してください。▶ P. 97

■ヒューズの点検・交換

メインスイッチを○（Off）にして、ヒューズを取り外して点検します。切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換してください。ヒューズの容量はスペックページをご確認ください。▶ P. 114



アドバイス

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱・焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ヒューズの劣化以外の原因が考えられます。Honda 販売店にご相談ください。

エンジンオイル（トランスミッションオイル）

エンジンオイルは走行距離や走行状況、時間の経過とともに劣化したり減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたり古くなったオイルはエンジンに悪影響を与えますので早めに交換してください。

オイル交換は Honda 販売店で行うことを推奨します。交換時期はスペックページをご確認ください。▶ P. 113

■ エンジンオイル（トランスミッションオイル）の選びかた

推奨エンジンオイル（トランスミッションオイル）:

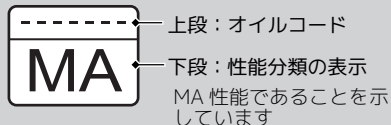
Honda 純正 ウルトラ G1

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格※1: MA
- SAE 規格※2: 10W-30
- API 分類※3: SG・SH・SJ・SL 級相当

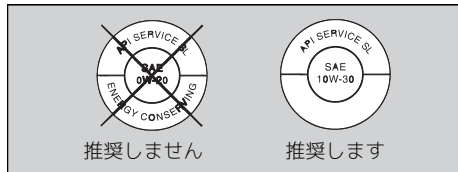
また、必要以上に摩擦を低減するオイル添加剤はエンジンやクラッチの性能や寿命に悪影響を与える場合がありますので使用しないでください。

※1: JASO T 903 規格は、二輪車用4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



※2: SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※3: API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



ブレーキ液（クラッチ液）

銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

アドバイス

ブレーキ液は、プラスチックや塗装面を損傷します。漏れたブレーキ液は直ちに拭き取ってください。

指定ブレーキ液：

Honda 純正ブレーキフルード
DOT4

冷却水

Honda 純正ウルトララジエーター液を、蒸留水または水道水で下記濃度に薄めてお使いください。

標準濃度：50%

濃度による不凍温度：

30% の場合：-16℃ まで

50% の場合：-37℃ まで

アドバイス

指定以外のラジエーター液や不適当な水（井戸水や天然水）を使うと、サビなどの原因となります。

エアクリーナー

この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリーナーエレメントが装備されており点検・清掃は不要ですが定期的な交換が必要です。

エアクリーナーエレメントの交換は、Honda 販売店にご相談ください。交換時期はスペックページをご確認ください。➡ P. 113

ドライブチェーン

チェーンは、定期的に点検および給油を行ってください。また悪路走行が多い場合や連続高速走行、急加速を繰り返すような運転を行う場合には、頻繁に点検を行ってください。▶ P. 74

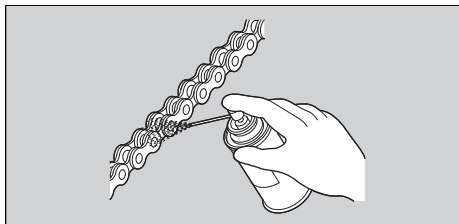
チェーンの異常（回転が滑らかでない、異音、固着、ローラーやOリングの損傷）は、Honda 販売店にご相談ください。

■ドライブチェーンの清掃と給油

緩み（たるみ）の点検後、後輪をゆっくりと回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを中性洗剤またはチェーンクリーナーを使用し、乾いた布などで落とします。汚れがひどい場合、やわらかいブラシを使用してください。汚れを落とし、十分に乾燥させ、推奨オイルをチェーンローラーの両側に給油してください。

推奨オイル：

Honda 純正チェーンオイルまたは相当品



チェーンは、ゴムのシールを使用しているため、スチーム / 高圧洗浄、ワイヤーブラシ、ガソリンやベンゼンなどの揮発性溶剤、研磨材が入っている洗剤は使用しないでください。

シール（Oリング）チェーン専用の、クリーナーや潤滑油（チェーンスプレーなど）以外は使用しないでください。

オイルがブレーキやタイヤに付着しないようにしてください。チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り汚しますので、オイルをつけ過ぎないように注意してください。

ブリーザードレーン

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレーンの清掃が必要です。▼P. 76

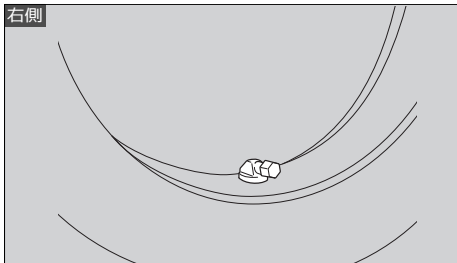
タイヤ

■空気圧の点検

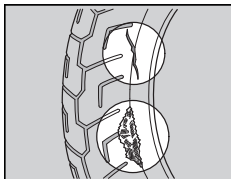
タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも1か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。

タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

エアバルブの向きがかわっていても、もとに戻そうとせず、Honda 販売店にご相談ください。

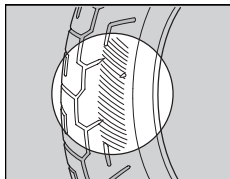


■ 亀裂と損傷の点検



タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

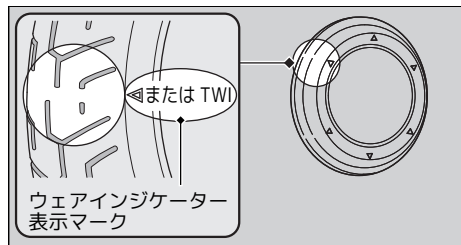
■ 異状な摩耗の点検



タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

溝の深さの点検

ウェアインジケーター（スリップサイン）により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、直ちに交換してください。また、安全走行のため、トレッド中央部の溝の深さが最小残溝量になったときは交換してください。



警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、Honda 販売店にご相談ください。指定タイヤ、空気圧、最小残溝量（溝の深さ）はスペックページをご確認ください。▶ P. 113

- ホイールバランス調整のためにバランスウェイトを貼り付けるときは、Honda 純正部品、又は同等品のバランスウェイトを使用してください。

警告

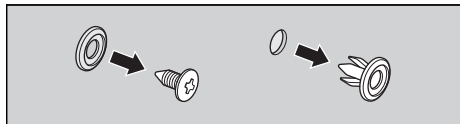
指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取り付けてください。

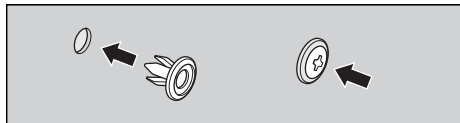
クリップ

■取り外し

1. ピンを取り外す。
2. クリップを引き抜く。



■取り付け



1. クリップを穴に差し込む。
2. ピンを穴に押し込む。

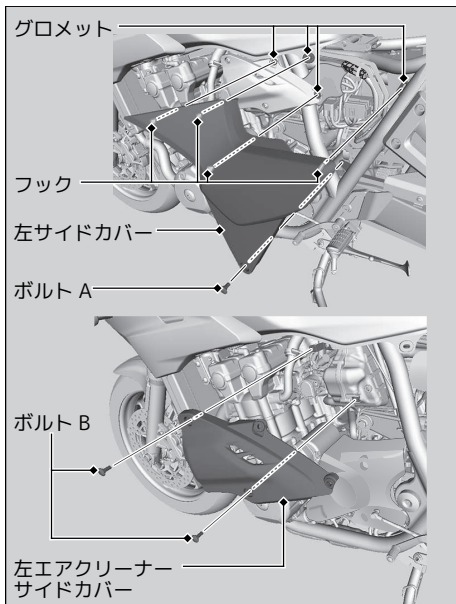
サイドカバー／エアクリー ナーサイドカバー

Ⅰ取り外し

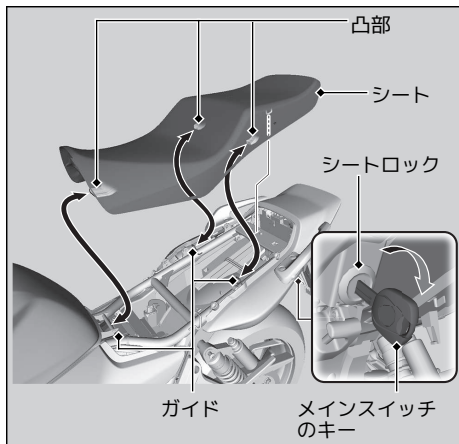
1. シートを取り外す。▶ P. 64
2. ボルト A を取り外す。
3. 左サイドカバーを引き、フックをグロメットから外す。
4. ボルト B を外し、左エアクリーナーサイドカバーを取り外す

Ⅰ取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。



シート



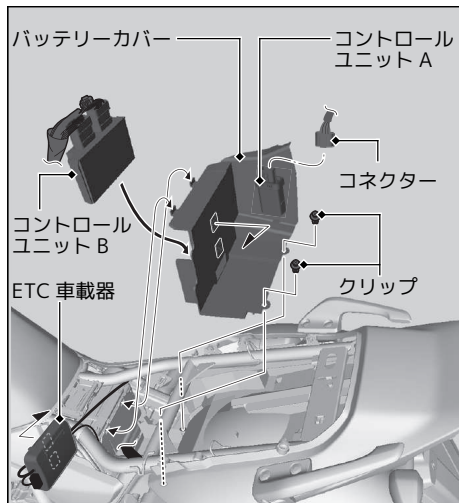
取り外し

1. メインスイッチのキーをシートロックに差し込み、右に回してシートロックを解除する。
2. シートを後方へずらしながら持ち上げて取り外す。

取り付け

1. フレームのガイドにシートの凸部を差し込む。
2. シートを前方に押しながら、シートの後方を押し下げ、ロックする。
▶ シートを軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。
3. メインスイッチのキーを抜く。
▶ メインスイッチのキーをシート下に置き忘れた状態でシートを取り付けると、自動的にロックされ、キーを取り出せなくなりますのでご注意ください。

バッテリー



バッテリーカバーに ETC 車載器が取り付けられています。ETC 車載器コード、ETC アンテナコードが断線し、ETC の動作不良の原因となるため、ETC 車載器、ETC 車載器コード、ETC アンテナコードの取り扱いには、以下の内容を必ず守ってください。

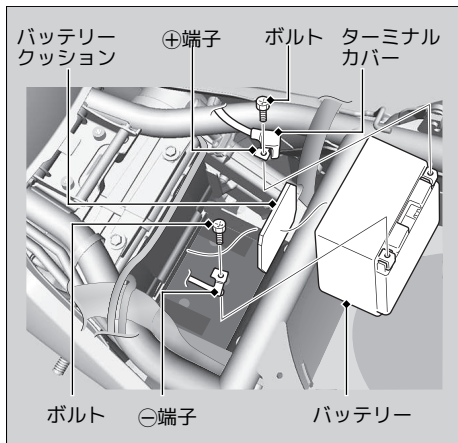
- ▶ 強く曲げたりしないようにしてください。
- ▶ 引っ張ったり、ねじったりしないようにしてください。



I 取り外し

メインスイッチが○ (Off) になっていることを確認してください。

1. シートを取り外す。▶ P. 64
2. ETC 車載器をバッテリーカバーからはがす。
コントロールユニット A のコネクターを取り外す。
▶ コードを損傷させないように、ETC 車載器およびコントロールユニット A のコネクターの取り外しに注意してください。
3. クリップを取り外す。▶ P. 62
4. バッテリーカバーをずらしてコントロールユニット B を外してから、バッテリーカバーを取り外す。
▶ コードを損傷させないように、コントロールユニット B の取り外しに注意してください。

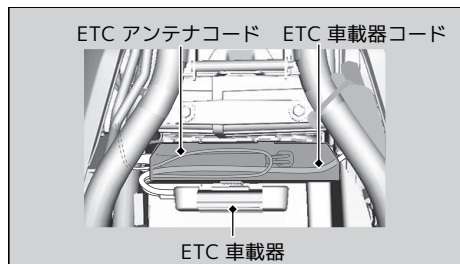


5. -端子のボルトを外し、-コードを外す。
6. ターミナルカバーをめくり、+端子のボルトを外し、+コードを外す。
7. 端子のナットを落とさないよう、バッテリーとバッテリークッションを取り出す。

Ⅰ 取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取り付けてください。また、ターミナル部にゆるみが生じないように、確実にボルトを締め付けてください。

ETC 車載器コード、ETC アンテナコードは図のように正しい位置に取り付けてください。



バッテリーコードを再び取り付けたときに、時計の表示がずれている場合は合わせ直してください。▶ P. 30

バッテリーの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。▶ P. 53

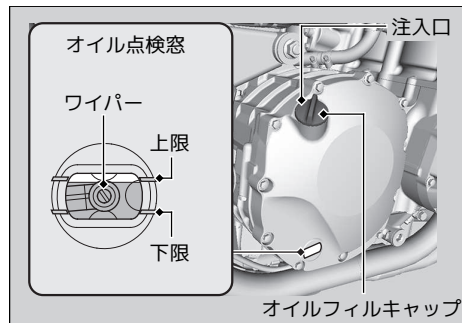
ハンドルバーポジション

CB1300 SUPER FOUR / CB1300 SUPER FOUR SP

ライダーの好みに応じて、ハンドル位置を変更することができます。ハンドル位置を変更する場合は Honda 販売店にご相談ください。

オイルの量の点検

1. エンジンが冷えている場合は、3～5分ほどアイドリングさせる。
2. メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを止め、2～3分間待つ。
3. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
4. オイルレベルが点検窓の上限と下限の間にあることを確認する。
 - ▶ オイル点検窓が汚れている場合は、ワイパーを回転させ汚れを取ってください。



オイルの補給

エンジンオイルが不足している、またはオイルレベルが下限に近いときは、推奨エンジンオイルを上限まで補給してください。 ■ P. 55,

■ P. 113

1. エンジンオイルの点検後、オイルフィルキャップを取り外し、オイルレベル点検窓で確認 (■ P. 69) しながら、オイルを注入口より補給する。
 - ▶ 上限を超えて補給しないでください。
 - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
 - ▶ オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。

2. オイルフィルキャップを確実に取り付ける。

アドバイス

オイルは規定量より多くても少なくとも、エンジンに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

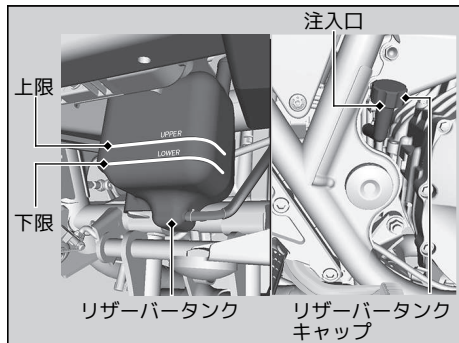
推奨エンジンオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。 ■ P. 55

オイル漏れの点検

エンジンなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

冷却水の量の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. 冷却水がリザーバータンクの上限 (UPPER) と下限 (LOWER) の間にあることを確認する。



冷却水の減り具合が著しいとき、またはリザーバータンクに冷却水がない場合は水漏れが考えられます。Honda 販売店にご相談ください。

冷却水の補給

冷却水の補給はリザーバータンクキャップから行い、ラジエーターキャップは外さないでください。

1. リザーバータンクキャップを取り外す。
2. 平坦地で車体を垂直にし、冷却水 (P. 56) のレベルを確認 (P. 71) しながら補給する。
 - ▶ 上限 (UPPER) を超えて補給しないでください。
 - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
3. リザーバータンクキャップを確実に取り付ける。

警告

エンジンが熱いときにラジエーターキャップを外すと冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエーターキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエーターが冷えていることを確認してください。

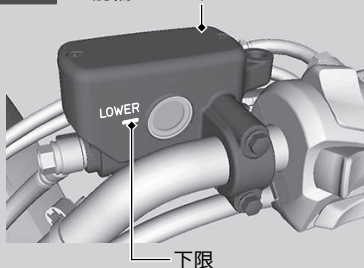
ブレーキ液の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. **フロント** リザーバートank上面を水平にし、液面が点検窓の下限（LOWER）以上にあることを確認する。
リア リザーバートank上面を水平にし、液面が上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあることを確認する。

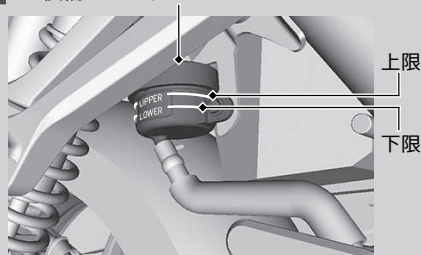
▶ 液面が下限（LOWER）以下の場合やブレーキレバーとブレーキペダルの遊びが大きいつきは、ブレーキパッドの摩耗の点検を行ってください。

パッドが摩耗していない場合、あるいは液漏れやホースに損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

フロント 前輪ブレーキリザーバートank



リア 後輪ブレーキリザーバートank



ブレーキパッドの摩耗の点検

フロント

パッドの摩耗限界溝が無くなったら、パッドの摩耗限界です。

リア

パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら左右同時にパッドを交換してください。

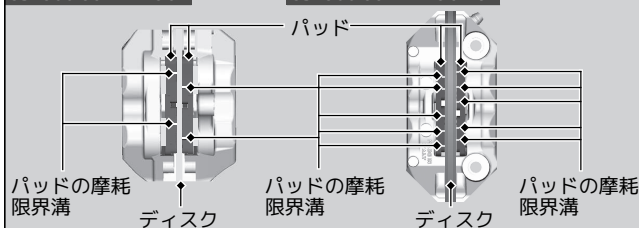
ブレーキパッドの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

1. **フロント** ブレーキキャリパーの下側からのぞいて点検します。
▶ 点検は片側だけでなく、左右のキャリパーで行ってください。
2. **リア** 車の右後側からキャリパーをのぞいて点検します。

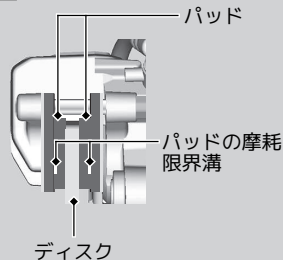
フロント

CB1300 SUPER BOL D'OR /
CB1300 SUPER FOUR

CB1300 SUPER BOL D'OR SP /
CB1300 SUPER FOUR SP



リア



緩み（たるみ）の点検

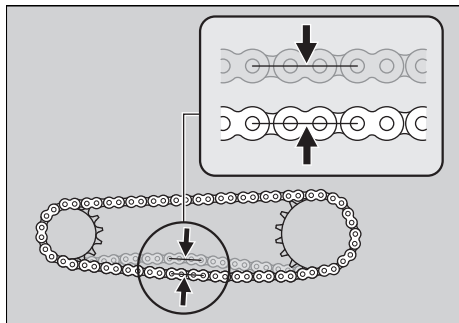
チェーンの緩み（たるみ）が適正かどうか、滑らかに回転するか点検します。緩み（たるみ）が規定の範囲を超えている場合、回転が滑らかでないときは Honda 販売店にご相談ください。

1. トランスミッションをニュートラルに入れて、エンジンを停止する。
2. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
3. 前後のスプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンの緩みが規定の範囲内にあることを確認する。

ドライブチェーンの緩み（たるみ）：

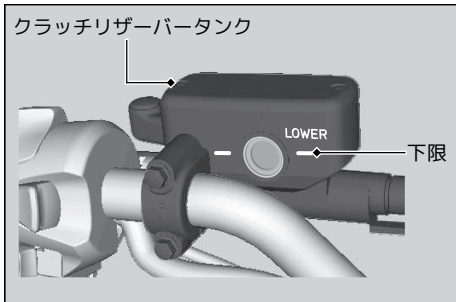
25 - 35 mm

- ▶ 緩みが 50 mm 以上の場合、絶対に走行しないでください。



4. 後輪を手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転することを確認する。
 - ▶ チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は清掃と給油を行ってください。➡ P. 57

クラッチ液の点検



1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. リザーバータンク上面を水平にし、クラッチ液の液面が点検窓の下限（LOWER）以上にあることを確認する。

液面が低い場合、あるいは液漏れやホースに損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

ブリーザードレンの清掃 (Honda 指定 1 年点検整備項目)

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレンの清掃が必要です。エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

Ⅰ 清掃のしかた

上側

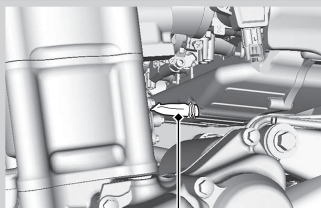
1. ブリーザードレンの下に受け皿などを用意する。
2. ブリーザードレンを外し、ブリーザードレン内の堆積物を取り除く。
3. ブリーザードレンを確実に取り付ける。

下側

1. ブリーザードレンプラグの下に受け皿などを用意する。

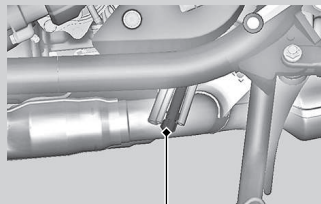
2. ブリーザードレンプラグを外し、ブリーザードレン内の堆積物を取り除く。
3. ブリーザードレンプラグを確実に取り付けける。

上側



ブリーザードレン

下側



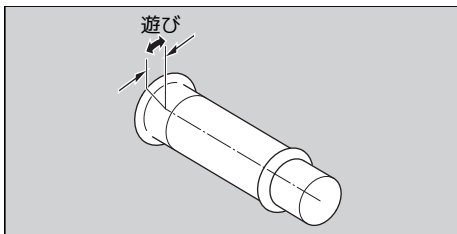
ブリーザードレンプラグ

スロットルの点検

メインスイッチを○(Off)にした状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか、ハンドルを左右にきっても作動が重くないか、スロットルグリップの遊びが適正か点検します。異状を感じた場合やスロットルケーブル外表部に損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

スロットルグリップの遊び：

2 - 4 mm



レバーの距離調整

クラッチレバーとブレーキレバーのそれぞれに、レバーとハンドルグリップの間隔を調整できるアジャスターが装備されています。

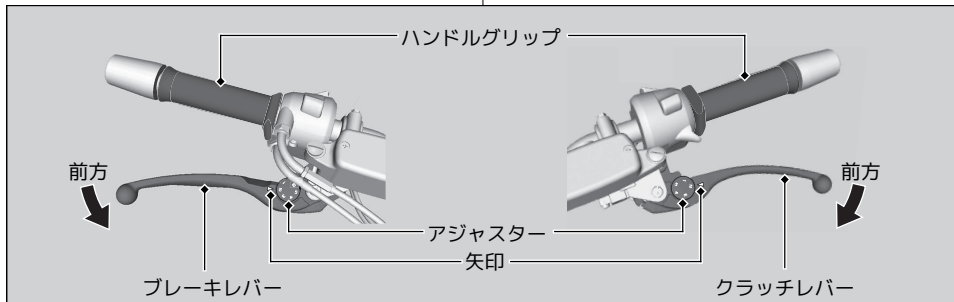
調整方法

レバーを前方に押しながらアジャスターを回し、アジャスターの数字と矢印が合う位置で段階的に調整します。

調整後は、走行する前にクラッチ、ブレーキがそれぞれ正常に作動することを確認してください。

アドバイス

調整範囲を超えてアジャスターを回さないでください。



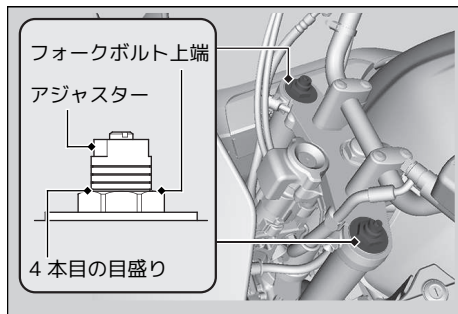
フロントサスペンションの調整

CB1300 SUPER BOL D'OR / CB1300 SUPER FOUR

Ⅰ スプリングの強さ

体重や路面の状態などに応じ、スプリングの強さを調整できます。

スプリングの強さは、アジャスターを右（時計回り）に回すと強くなり、左（反時計回り）に回すと弱くなります。標準は、アジャスターの上から4本目の目盛りがフォークボルトの上端に合う位置です。



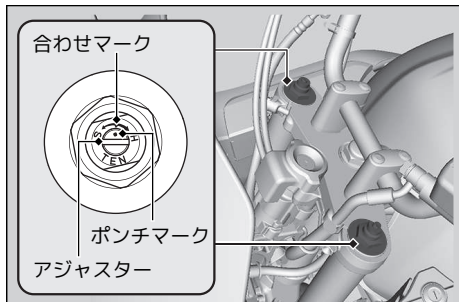
アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

Ⅰ 伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。

減衰力の強さは、アジャスターを H 側（時計回り）に回すと強くなり、S 側（反時計回り）に回すと弱くなります。標準は、アジャスターを H 側に止まるまで回したあと、S 側に 1.5 回転戻し付近でポンチマークと合わせマークが合う位置です。



アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

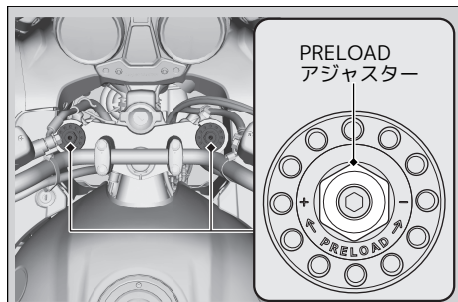
CB1300 SUPER BOL D'OR SP /
CB1300 SUPER FOUR SP

Ⅰ スプリングの強さ

体重や路面の状態などに応じ、スプリングの強さを調整できます。

スプリングの強さは、PRELOAD アジャスターを回して調整します。PRELOAD アジャスターを＋側（時計回り）に回すと強くなり、－側（反時計回り）に回すと弱くなります。標準は、PRELOAD アジャスターを一側に軽く止まるまで回したあと、＋側に 8 回転戻した位置です。

▶ 調整の際は、アジャスターを傷つけないよう、注意してください。



アドバイス

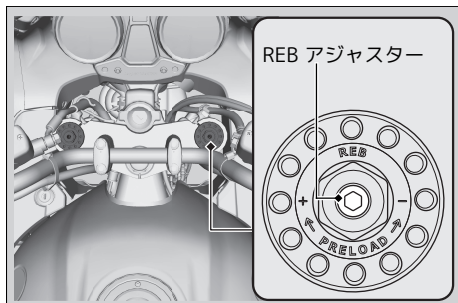
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

Ⅰ 伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。

減衰力の強さは、フロントサスペンションの右側にある REB アジャスターを回して調整します。REB アジャスターを＋側（時計回り）に回すと強くなり、－側（反時計回り）に回すと弱くなります。REB アジャスターを＋側に軽く止まるまで回したあと、－側に戻し、最初のクリックする位置が 0 段（最強位置）です。標準は、REB アジャスターを 0 段から－側に 10 クリック戻した位置（10 段目）です。

- ▶ 調整の際は、アジャスターを傷つけないよう、注意してください。



アドバイス

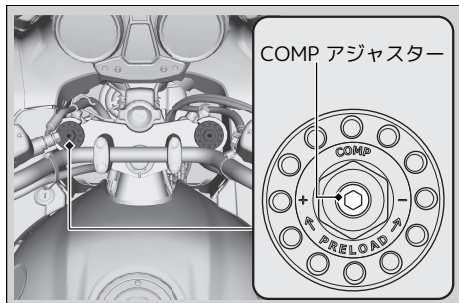
アジャスターは、無理に回さないでください。

Ⅰ 縮み側減衰力

体重や路面の状態に応じ、縮み側減衰力を調整できます。

減衰力の強さは、フロントサスペンションの左側にある COMP アジャスターを回して調整します。COMP アジャスターを＋側（時計回り）に回すと強くなり、－側（反時計回り）に回すと弱くなります。COMP アジャスターを＋側に軽く止まるまで回したあと、－側に戻し、最初のクリックする位置が 0 段（最強位置）です。標準は、COMP アジャスターを 0 段から－側に 10 クリック戻した位置（10 段目）です。

▶ 調整の際は、アジャスターを傷つけないよう、注意してください。



アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。

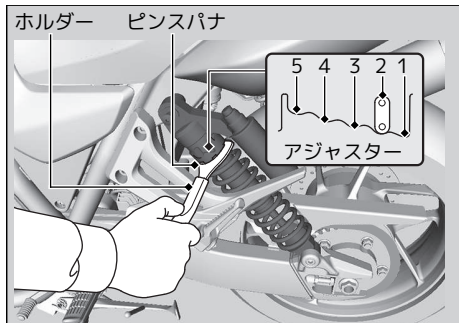
リアサスペンションの調整

CB1300 SUPER BOL D'OR / CB1300 SUPER FOUR

Ⅰ スプリングの強さ

体重や路面の状態に応じ、スプリングの強さを調整できます。

調整にはピンスパナとホルダーを使いアジャスターを回して行います。2 が標準の強さで、1 は弱く、3～5 と強くなります。



アドバイス

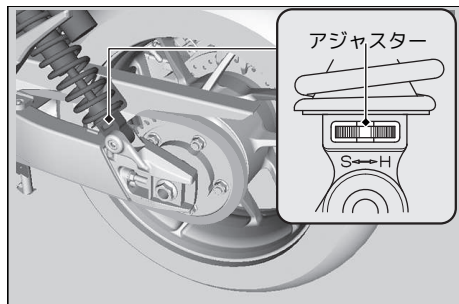
アジャスターを直接 1 から 5 または 5 から 1 に無理に回すとリアクッションが破損します。

アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

Ⅰ 伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。減衰力の強さは、アジャスターをH側（右側）に回すと強くなり、S側（左側）に回すと弱くなります。標準は、アジャスターをH側に軽く止まるまで回したあと、S側に10クリック戻した位置です。

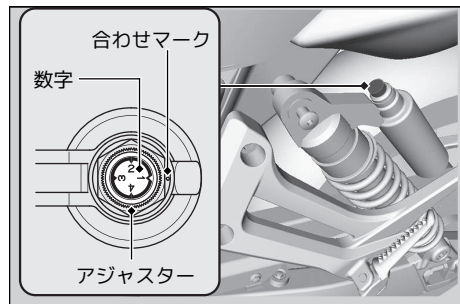


アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

Ⅰ 縮み側減衰力

体重や路面の状態に応じ、縮み側減衰力を調整できます。減衰力の強さは、アジャスターを回して、数字と合わせマークを合わせて調整します。1が標準の強さで、2～4と強くなります。



アドバイス

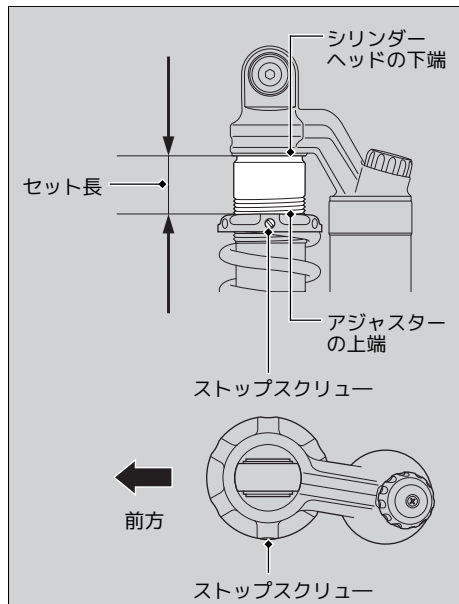
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

CB1300 SUPER BOL D'OR SP /
CB1300 SUPER FOUR SP

Ⅰ スプリングの強さ

体重や路面の状態に応じ、スプリングの強さを調整できます。

スプリングの強さはセット長(シリンダーヘッドの下端からアジャスター上端の長さ)で調整します。セット長を長くすると強くなり、短くすると弱くなります。標準は、セット長が 34.0～37.0 mm の間でストップスクリューが車体の外側で真横になる位置です。

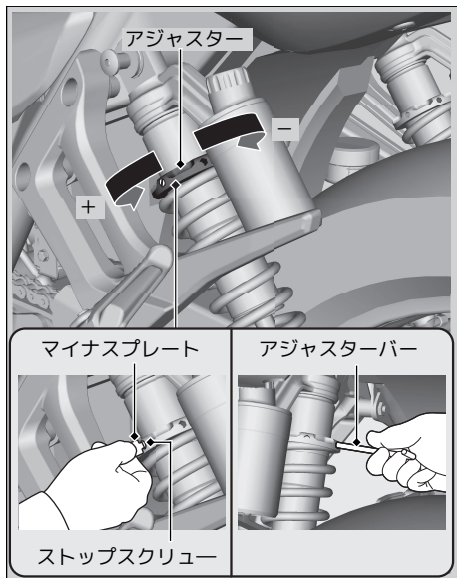


調整は次の手順で行ってください。

1. マイナスプレートを使いストップスクリューを緩める。
▶ マイナスプレートは携帯工具の中に入っています。▶ P. 44
2. アジャスターバーを使いアジャスターを回しスプリングの強さを調整する。
▶ アジャスターバーは携帯工具の中に入っています。▶ P. 44
▶ セット長は 28.0～47.5 mm の範囲で調整してください。
▶ アジャスターを+側に回すとセット長は長くなり、-側に回すと短くなります。
3. ストップスクリューを締め付ける。

アドバイス

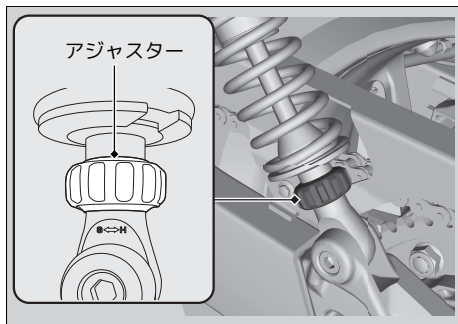
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。



Ⅰ 伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。

減衰力の強さは、アジャスターを回して調整します。アジャスターを H 側に回すと強くなり、S 側に回すと弱くなります。アジャスターを H 側に軽く止まるまで回したあと、S 側に戻し、最初のクリックする位置が 0 段（最強位置）です。標準は、アジャスターを 0 段から S 側に 18 クリック戻した位置（18 段目）です。



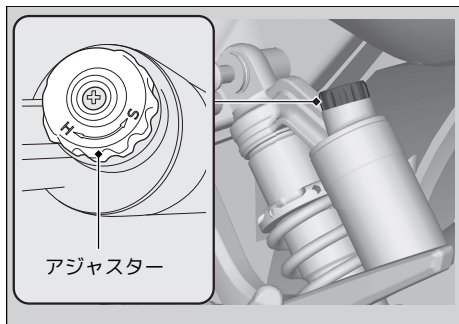
アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

Ⅰ 縮み側減衰力

体重や路面の状態に応じ、縮み側減衰力を調整できます。

減衰力の強さは、アジャスターを回して調整します。アジャスターを H 側に回すと強くなり、S 側に回すと弱くなります。アジャスターを H 側に軽く止まるまで回したあと、S 側に戻し、最初のクリックする位置が 0 段（最強位置）です。標準は、アジャスターを 0 段から S 側に 14 クリック戻した位置（14 段目）です。



アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

こんなときは

エンジンが始動しない（HISS 表示灯が消灯しない）	P. 91
オーバーヒート（水温警告灯が点灯）	P. 92
警告灯が点灯／点滅	P. 93
油圧警告灯	P. 93
PGM-FI 警告灯	P. 93
ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	P. 94
その他の故障表示	P. 95
燃料計の故障表示	P. 95
ハンドルグリップヒーターの故障表示	P. 96
電装部品のトラブル	P. 97
ヒューズ切れ	P. 97

スターターモーターは作動する がエンジンが始動しないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか ➡ P. 39
- 燃料タンクにガソリンはあるか
- PGM-FI 警告灯が点灯していないか
 - ▶ 点灯している場合は、直ちに Honda 販売店にご相談ください。
- HISS 表示灯が点灯したままになっていないか
 - ▶ メインスイッチを○（Off）にしてキーを抜き、再度キーを差し込み、メインスイッチを■（On）にしてください。それでも消灯しないときは、次の点を確認してください。他の HISS のキー（予備のキーを含む）が、メインスイッチの近くにあると通信不良の原因となります。キーに金属製のシールなどを貼ると通信不良の原因となります。確認しても消灯しない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

スターターモーターが作動せず始動できないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか ➡ P. 39
- エンジンストップスイッチが⊗（Stop）になっていないか
- ヒューズが切れていないか ➡ P. 54
- バッテリーターミナル部に緩みや腐食がないか ➡ P. 53

これらに該当しない場合や異常がある場合は、Honda 販売店にご相談ください。

オーバーヒート（水温警告灯が点灯）

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温警告灯が点灯している
- 走行時の加速が急に悪くなる

このようなときは直ちに安全な場所に車を停めて次の処置・確認を行ってください。

アドバイス

オーバーヒートの状態で走行を続けると、エンジン故障の原因となります。

長時間のアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。

オーバーヒートの処置

1. メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを止め、再度メインスイッチを■（On）にする。
2. ラジエーターの冷却ファンが作動するか作動音で確認し、メインスイッチを○（Off）にする。

冷却ファンが作動しない場合

故障が考えられますので、エンジンをかけず Honda 販売店にご相談ください。

冷却ファンが作動している場合

メインスイッチが○（Off）の状態で、エンジンが冷えるのを待ちます。

3. エンジンが冷えてから、リザーバータンクの冷却水を点検し、冷却水が不足していたら補給する。▶ P. 71, ▶ P. 71
4. ラジエーターホースなどを点検し、水漏れがないか確認する。

水漏れがある場合

エンジンをかけず、Honda 販売店にご相談ください。

5. 水温警告灯を確認しながら走行する。
▶ 異常がなければ走行可能ですが、異常が再発しない場合でも、なるべく早く Honda 販売店で点検を受けてください。

油圧警告灯

エンジンオイルの油圧が低下すると点灯します。油圧警告灯が点灯したら、速やかにエンジンを停止し、次の点を確認してください。

アドバイス

油圧が低下した状態で走行を続けると、エンジンが故障するおそれがあります。

1. オイルレベルを点検し、必要に応じて補給する。▶ P. 69
2. エンジンを始動する。
 - ▶ 油圧警告灯が消えたら、走行できます。
 - ▶ 消灯しない場合は、エンジンを止めて Honda 販売店にご相談ください。
 - ▶ 急な加速をすると油圧警告灯が瞬間的に点灯する場合があります。（特にオイルレベルが下限、下限付近の場合）
 - ▶ オイルが減っていた場合、オイル漏れや故障のおそれがありますので、Honda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯

走行中またはアイドリング中に点灯した場合は何らかの異常が考えられます。高速走行を避け、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯

警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、Honda 販売店にご相談ください。

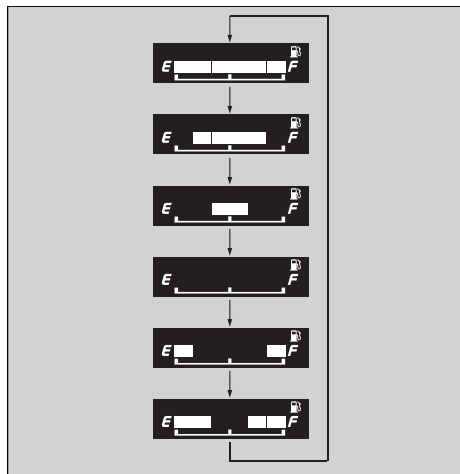
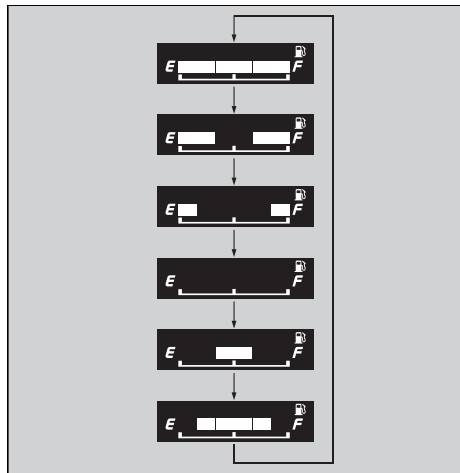
- 運転中に点灯または点滅したとき
- メインスイッチを **I** (On) にしても点灯しないとき
- 10 km/h 以上で走行しても消灯しないとき

警告灯が点灯または点滅した場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしての作動はしません)

ABS 警告灯が消灯しているときに、後輪が持ち上がった状態で後輪を空転させると、警告灯が点滅する場合があります。この場合はメインスイッチを **O** (Off) にし、再度メインスイッチを **I** (On) にします。警告灯が点灯し、速度が約 30 km/h に達して消灯すれば正常です。

燃料計の故障表示

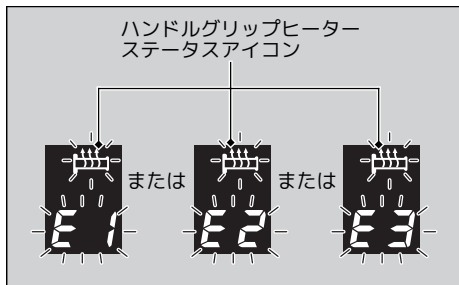
燃料計のマークが下図のように点灯、消灯をくりかえしたときは、Honda 販売店にご相談ください。



こんなときは

ハンドルグリップヒーターの故障表示

ハンドルグリップヒーターステータスアイコンと“E1”、“E2”、“E3”表示が点滅した場合、ハンドルグリップヒーターの異常が考えられますので、Honda 販売店にご相談ください。



ヒューズの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。▶ P. 54

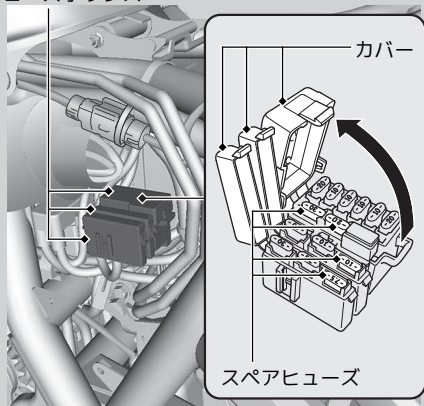
ヒューズ切れ

■ヒューズボックス内のヒューズ

1. シートを取り外す。▶ P. 64
2. 左サイドカバーを取り外す。▶ P. 63
3. ヒューズボックスのカバーを開ける。
4. ヒューズが切れている場合はヒューズプラーを使って、同じ容量のスペアヒューズと交換する。
▶ ヒューズプラーは携帯工具の中に入っています。▶ P. 44
5. ヒューズボックスのカバーを閉じる。
6. 外した部品を逆の手順で取り付ける。

CB1300 SUPER BOL D'OR /
CB1300 SUPER BOL D'OR SP

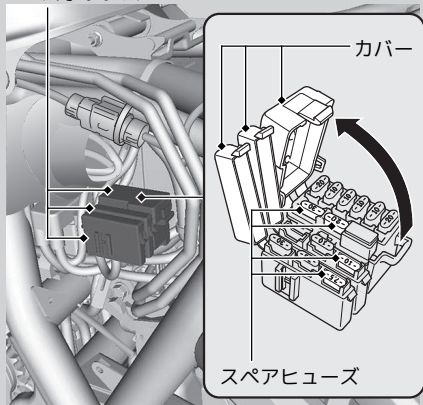
ヒューズボックス



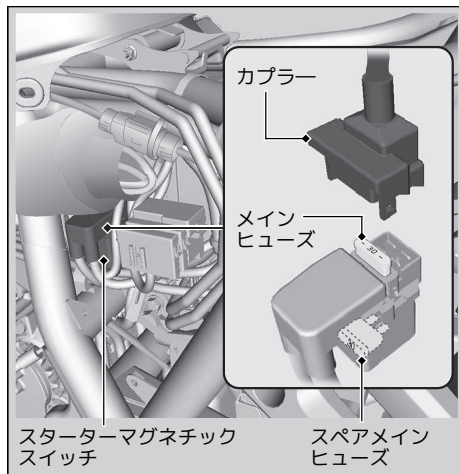
こんなときは

CB1300 SUPER FOUR / CB1300 SUPER FOUR SP

ヒューズボックス



メインヒューズ



1. シートを取り外す。▶ P. 64
2. 左サイドカバーと左エアクリーナーサイドカバーを取り外す。▶ P. 63
3. スターターマグネチックスイッチのカプラーを取り外す。
4. メインヒューズが切れている場合はヒューズプラーを使って、スペアメインヒューズと交換する。
 - ▶ ヒューズプラーは携帯工具の中に入っています。▶ P. 44
 - ▶ スペアメインヒューズはスターターマグネチックスイッチの下にあります。
5. 外した部品を逆の手順で取り付ける。

アドバイス

ヒューズが切れた際は、早めに Honda 販売店で点検し、スペアのヒューズを補充してください。

インフォメーション

キーの取り扱い	P. 101
装備に関する補足情報	P. 102
車のお手入れ	P. 103
保管のしかた	P. 107
廃棄するとき	P. 107
フレームおよびエンジンナンバー	P. 110
触媒装置について	P. 111

キーの取り扱い

メインスイッチのキー

メインスイッチのキーには、キータグが付属します。キータグにはシリアルナンバーとバーコードがあります。

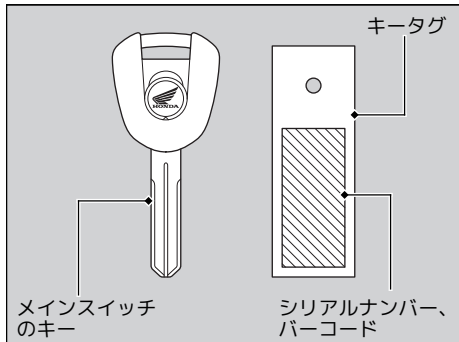
メインスイッチのキーには、HIS（イモビライザーシステム）の電子部品が内蔵されています。電子部品の破損またはデータ異常の発生を防ぐため、取り扱いの際には次のことをお守りください。

- キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えない
- 長時間、直射日光にさらしたり高温下で放置しない
- 削ったり、穴を開けない
- 強い磁気を帯びた場所に置かない

キー、キータグをすべて紛失した場合、イグニッションユニットの交換が必要になります。予備のキー、キータグは大切に保管してください。

予備のキーの作成については、専用のキーおよびHISの再登録が必要になりますので、Honda 販売店にご相談ください。

キーに金属製のキーホルダーを使用するとメインスイッチ周辺に傷がつくおそれがあります。



装備に関する補足情報

■ メインスイッチ

エンジンをかけずにメインスイッチを **I** (On) の状態にしておくとバッテリーあがりの原因となります。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

■ エンジンストップスイッチ

このスイッチは、非常時に、すぐにエンジンを止めるために設けたものです。非常時以外は使用しないでください。走行中に操作すると、エンジン回転が不安定になり、走行に悪影響を与えます。

非常時にこのスイッチでエンジンを止めた場合は、メインスイッチを必ず **○** (Off) にしてください。**I** (On) のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

■ オドメーター

オドメーターは、999,999 km を超えると 999,999 km でロックします。

■ トリップメーター

トリップメーター A/B は、9,999.9 km を超えると 0.0 km に戻ります。

■ HISS

HISS は、登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしたイモビライザー（盗難防止）システムです。

エンジンストップスイッチが **○** (Run) の状態でメインスイッチを **I** (On) にすると、HISS 表示灯が点灯し、数秒後に消灯することでエンジンの始動が可能であることを示します。消灯しない場合は始動できません。

HISS 表示灯が消灯しないとき  P. 91

HISS 表示灯は、メインスイッチを **○** (Off) にしたあと 2 秒間隔の点滅を開始し、24 時間経過すると消灯します。

メーターの設定機能を使用して、HISS 表示灯の点滅／非点滅の切り換えを行うことができます。

メーターの設定  P. 30

書類入れ

取扱説明書、登録書類、保険証、メンテナンスノートなどは書類入れに入れ、シート裏側に収納してください。

イグニッションカットオフシステム

この車は、転倒したとき、自動的にエンジンを停止するシステムが装備されています。エンジンを再始動するときは、システムの作動を解除するためにメインスイッチを一度○（Off）にしてください。

ヘッドライト、ストップ/テールランプ、フロントウィンカー、リアウィンカー

LED 使用のライトは一体式です。

もし、1 個でも点灯しなくなった場合は、Honda 販売店にご相談ください。

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつながります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジか柔らかいタオルを使って洗う。
▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させた後、ドライブチェーンと可動部分に注油する。
5. 車体の腐食を防ぐためワックスがけを行う。

Ⅰ 洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用はさける
 - ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
 - ▶ ヘッドライトレンズやフェアリング、その他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
- マフラーに水を入れない
 - ▶ 始動不良やサビの発生などの原因になります。
- シートの下から水を強くかけない
 - ▶ 内部に水が入り、書類などが濡れることがあります。
- エアクリーター周辺に水を強くかけない
 - ▶ エアクリーター内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- ブレーキを濡れたままにしない
 - ▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなることがあります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。

- ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき
 - ▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
 - ▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディーが目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
 - ▶ つや消し塗装が使われている場合は、塗装面にワックスやケミカル類を使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。

● ヘッドライトがくもったとき

- ▶ ヘッドライトは雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは、雨天時などに窓ガラスがくもると同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ヘッドライトの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。

但し、ヘッドライト内に水がたまっている場合や大粒の水滴がついている場合は Honda 販売店にご相談ください。

アルミ部品

アルミ部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 硬いブラシやスチールウールを使用しない
- アルミホイールはすり当てをさけ、縁石などに乗り上げる際は変形に注意する

樹脂部品

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- メーター、スクリーン、フェアリング、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、ブレーキ液、クリーナーなどがかからないようにする

- **CB1300 SUPER BOL D'OR /
CB1300 SUPER BOL D'OR SP**

スクリーンに貼付されているコーションラベルをはがさない

エキゾーストパイプ、マフラー

ステンレス鋼を使用していますので、油脂などの汚れが付着したままエンジンを始動すると、焼けムラが起きます。

汚れが付着した場合は、ステンレス用台所洗剤を使って、やわらかい布かスポンジで洗い落としてください。洗浄後は、十分に水洗いして乾いた布で水分を拭き取ってください。

焼けムラをとる場合は、市販の細目のコンパウンドで磨いたあと、汚れが付着した場合と同じ要領で洗い落としてください。

エキゾーストパイプ、マフラーが塗装されている場合は、ステンレス用台所洗剤や市販のコンパウンドを使用しないでください。塗装面の清掃には中性洗剤を使用してください。もし、塗装処理されているかわからない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

アドバイス

ステンレス鋼を使用している場合でも、塗装をしているものもあります。

目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。

保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- サビを防ぐために、保管前にワックスがけを行う（つや消し塗装面を除く）
- 雨上がりにはボディーカバーを外し、車体を乾燥させる
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため、車から取り外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存する
 - ▶ もしバッテリーを車に積んだままにする場合は、⊖側ターミナルを外してください。

長期保管後にお車に乗る際は、保管期間を考慮した上で、各部の点検を実施してください。

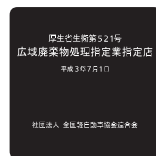
廃棄するとき

地球環境を守るため、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。

また、将来お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で広域廃棄物処理指定店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。



二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はおお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、シートを取り外すと確認できます。▶ P. 64



お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等は、Honda ウェブサイト「廃棄段階のリサイクル 二輪車リサイクル自主取り組み」にてご確認ください。

<http://www.honda.co.jp/motor-recycle/>

ダンパーユニット

リアサスペンションのダンパーユニットには、高圧窒素ガスが封入されています。廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。

警告

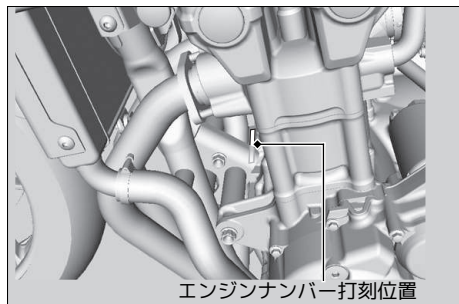
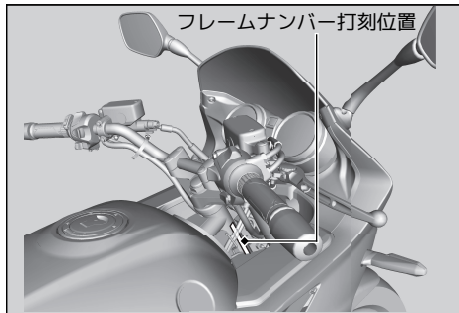
高圧窒素ガスが封入されたダンパーユニットを火中に入れたり、穴を開けたり、分解したりすると、爆発や破裂するおそれがあり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

ダンパーユニットは、

- ・ 火中に入れないでください。
- ・ 穴を開けないでください。
- ・ 分解しないでください。

フレームおよびエンジンナンバー

フレームおよびエンジンナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。



触媒装置について

この車は平成 28 年排出ガス規制適合車です。この車には触媒装置が搭載され、排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の 3 つの有害物質の排出量を低減します。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。触媒装置は高温になるので、枯れ草や紙など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

走行上の注意

次のような取り扱いはしないでください。触媒温度が異常に高くなり、損傷するおそれがあります。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作すること
- 空ぶかし直後にエンジンを止めること

触媒装置の損傷を防ぐために

触媒装置が損傷すると、排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、車本来の性能を発揮できなくなります。損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- 燃料は、必ず無鉛ガソリンを使用する
- 定められた点検整備を実施する
- エンジン不調を感じたときは、直ちに Honda 販売店で点検を受ける

スペック

■ 主要諸元

型式	2BL-SC54
全長	2,200 mm
全幅	CB1300 SUPER FOUR
	CB1300 SUPER FOUR SP
	795 mm
	CB1300 SUPER BOL D'OR
全高	CB1300 SUPER BOL D'OR SP
	825 mm
	CB1300 SUPER FOUR
	1,125 mm
全高	CB1300 SUPER BOL D'OR
	1,205 mm
	CB1300 SUPER FOUR SP
	1,135 mm
ホイールベース	CB1300 SUPER BOL D'OR SP
	1,215 mm
	1,520 mm
	CB1300 SUPER FOUR
最低地上高	CB1300 SUPER BOL D'OR
	125 mm
	CB1300 SUPER FOUR SP
	CB1300 SUPER BOL D'OR SP
キャスト角	135 mm
	25° 00'
トレール長	99 mm

車両重量	CB1300 SUPER FOUR	
	CB1300 SUPER FOUR SP	
	268 kg	
	CB1300 SUPER BOL D'OR	
乗車定員	CB1300 SUPER BOL D'OR SP	
	274 kg	
	2 名	
	2.7 m	
最小回転半径	2.7 m	
排気量	1,284 cm ³	
ボア×ストローク	78.0 x 67.2 mm	
圧縮比	9.6	
燃料	無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量	21 ℓ	
バッテリー容量	YTZ14S	
	12 V-11.2 Ah (10 HR)	
変速比	1 速	3.083
	2 速	1.941
	3 速	1.478
	4 速	1.240
	5 速	1.074
	6 速	0.964
減速比	1 次	1.652
	2 次	2.222

■ サービスデータ

タイヤサイズ	前輪	120/70ZR17M/C (58W)
	後輪	180/55ZR17M/C (73W)
タイヤタイプ	ラジアル、チューブレス	
指定タイヤ	前輪	BRIDGESTONE BATTLAX SPORT TOURING T30F J DUNLOP ROAD SMART III P
		BRIDGESTONE BATTLAX SPORT TOURING T30R E DUNLOP ROAD SMART III P
	後輪	BRIDGESTONE BATTLAX SPORT TOURING T30R E DUNLOP ROAD SMART III P
		BRIDGESTONE BATTLAX SPORT TOURING T30R E DUNLOP ROAD SMART III P
タイヤ空気圧	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm ²)
	後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm ²)
最小残溝量	前輪	1.5 mm
	後輪	2.0 mm
点火プラグ	標準	DPR8EA-9 (NGK) または X24EPR-U9 (DENSO)
プラグギャップ	0.80 - 0.90 mm	
アイドル回転数	1,000 ± 100 rpm	
推奨 エンジンオイル	Honda 純正 ウルトラ G1	
	JASO T 903 規格 : MA	
	SAE 規格 : 10W-30	
	API 分類 : SL 級	
エンジンオイル 容量	オイル 交換時	3.8 ℓ
	フィルター 交換時	4.0 ℓ
	全容量	4.6 ℓ
	初回 : 1,000 km または 1 ヶ月	
エンジンオイル 交換時期	以後 : 10,000 km または 1 年ごと	

推奨ドライブ チェーンオイル	"Honda 純正チェーンオイル" または相 当品
ドライブチェーン の緩み (たるみ)	25 - 35 mm
指定ブレーキ (クラッチ) 液	Honda 純正ブレーキフルード DOT4
冷却水容量	2.81 ℓ
指定 ラジエーター液	Honda 純正ウルトララジエーター液
エアクリーナー 交換時期	交換 : 40,000 km ごと

■ バルブ（電球）

ヘッドライト	LED
ストップノ テールランプ	LED
フロントウィンカー・ ポジションランプ	LED
リアウィンカー	LED
ライセンスプレートライト	12 V-5 W

■ ヒューズ

メインヒューズ	30 A
その他のヒューズ	30 A、20 A、10 A、7.5 A

A

- ABS 警告灯 34
 ABS (アンチロックブレーキシステム) 6, 94

E

- ETC 車載器/ETC 表示灯/ETC アンテナ 48

H

- HISS 33, 102

P

- PGM-FI 警告灯 34

ア

- アクセサリ 10
 アクセサリーソケット 42
 安全運転のために 3
 安全上守っていただきたいこと 3
 安全なライディング 2

イ

- イグニッションカットオフシステム 103

- インフォメーション 100

ウ

- 運転するときの注意 5

エ

- エアクリナー 56

エンジン

- エンジンオイル 69
 エンジン始動 39
 エンジンストップスイッチ 102
 エンジンナンバー 110

- エンジンオイル 55

- エンジンがかからないとき 91

オ

- オーバーヒート 92
 お手入れ 103
 オドメーター 102

カ

- 改造 10

各部の名称	12
ガソリン	9, 41

キ	
ギアチェンジ	40

ク	
クラッチ	
クラッチ	75
クラッチ液	75
クラッチレバー	78
クリップ	62

ケ	
警告灯	
ABS 警告灯	34
PGM-FI 警告灯	34, 93
ABS（アンチロックブレーキシステム）警告 灯	94
水温警告灯	34
油圧警告灯	34, 93
携帯工具	44

コ	
こんなときは	90

サ	
サイドスタンド	7
サスペンション	
フロントサスペンション	79
リアサスペンション	84

シ	
シート	64
触媒装置	111
書類入れ	44, 103

ス	
水温警告灯	34

スイッチ

ウインカースイッチ	36
エンジンストップスイッチ	36
スタータースイッチ	36
ハザードスイッチ	36
パッシングライトスイッチ	36
ハンドルグリップヒータースイッチ	36
ヘッドライト上下切り換えスイッチ	36
ホーンスイッチ	36
メインスイッチ	37, 102
スピードメーター	20
スペック	112
スロットル	77

セ

積載について	11
洗車	103

ソ

その他装備	43
-------------	----

タ

タイヤ	58
タコメーター	20

チ

駐車	7
----------	---

テ

点検

定期点検	51
日常点検	50
電装部品のトラブル	97

ト

時計	31
ドライブチェーン	57, 74
トリップメーター	102

ナ

慣らし運転	5
-------------	---

ネ

燃料

使用燃料	41
燃料計	21
燃料タンク容量.....	41
燃料補給	41
燃料計の故障表示.....	95

ハ

廃棄	107
バッテリー	53, 65
ハンドルグリップヒーター	
故障表示	96

ヒ

ヒューズ	54, 97
表示灯	
ETC 表示灯.....	35
HISS 表示灯	35
ニュートラル表示灯.....	35
ハイビームパイロットランプ	35
方向指示器表示灯.....	35

フ

服装	3
ブリーザードレーン	58, 76
ブレーキ	
使いかた.....	5
ブレーキ液	56, 72
ブレーキシステム.....	5
ブレーキパッド.....	73
フレームナンバー	110
ブレーキレバー.....	78

ヘ

ヘルメット	4
ヘルメットホルダー	43

ホ

ホーンスイッチ	36
保管	107

メ

メインスイッチ	37, 102
メインスイッチのキー.....	101

メーター	20
メンテナンス	49

ユ

油圧警告灯	34
-------------	----

リ

リサイクルマーク	108
----------------	-----

レ

冷却水.....	56, 71
レッドゾーン	20

お問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受けいたします。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

オーハローバイク
フリーダイヤル **0120-086819**

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日

②車種名、タイプ名、走行距離

③ご購入年月日

④販売店名



30MFP650
00X30-MFP-6500

© 1200.2018.08.K
© 2018 本田技研工業株式会社